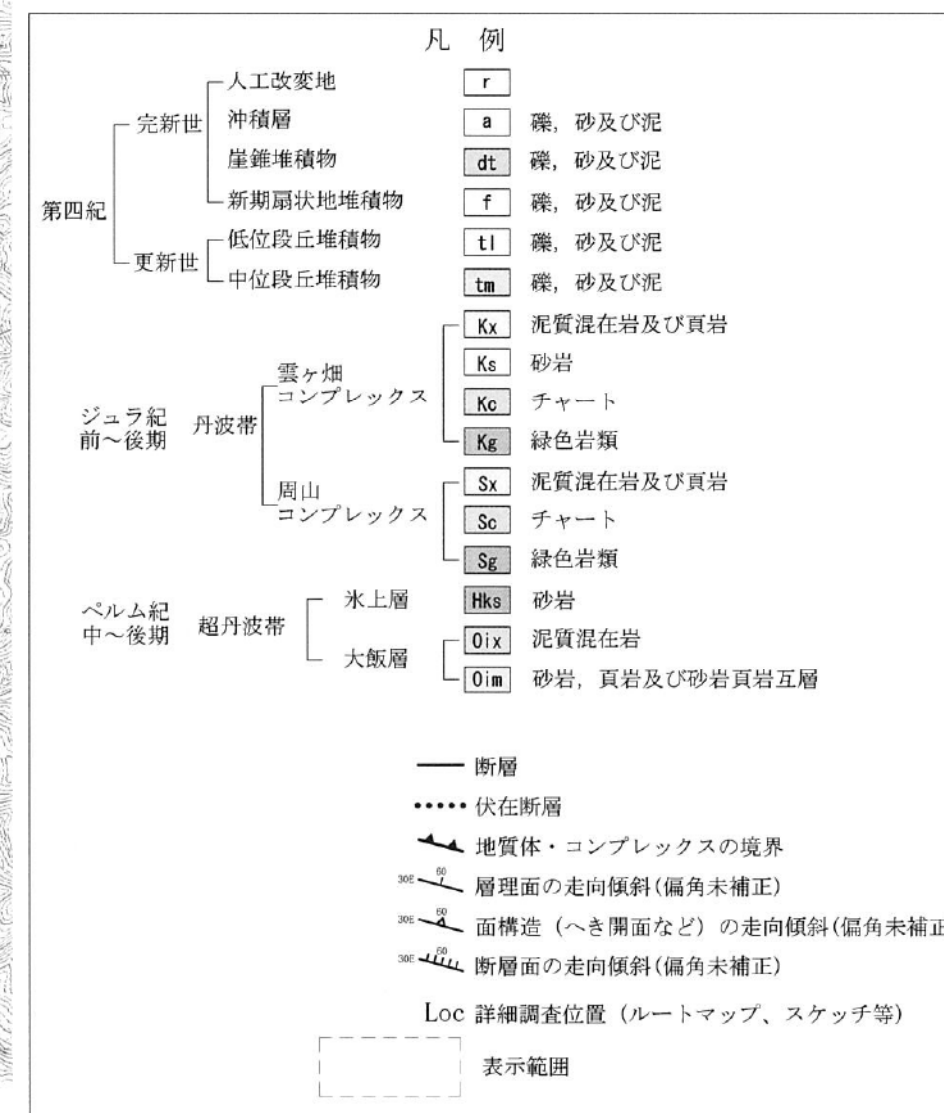
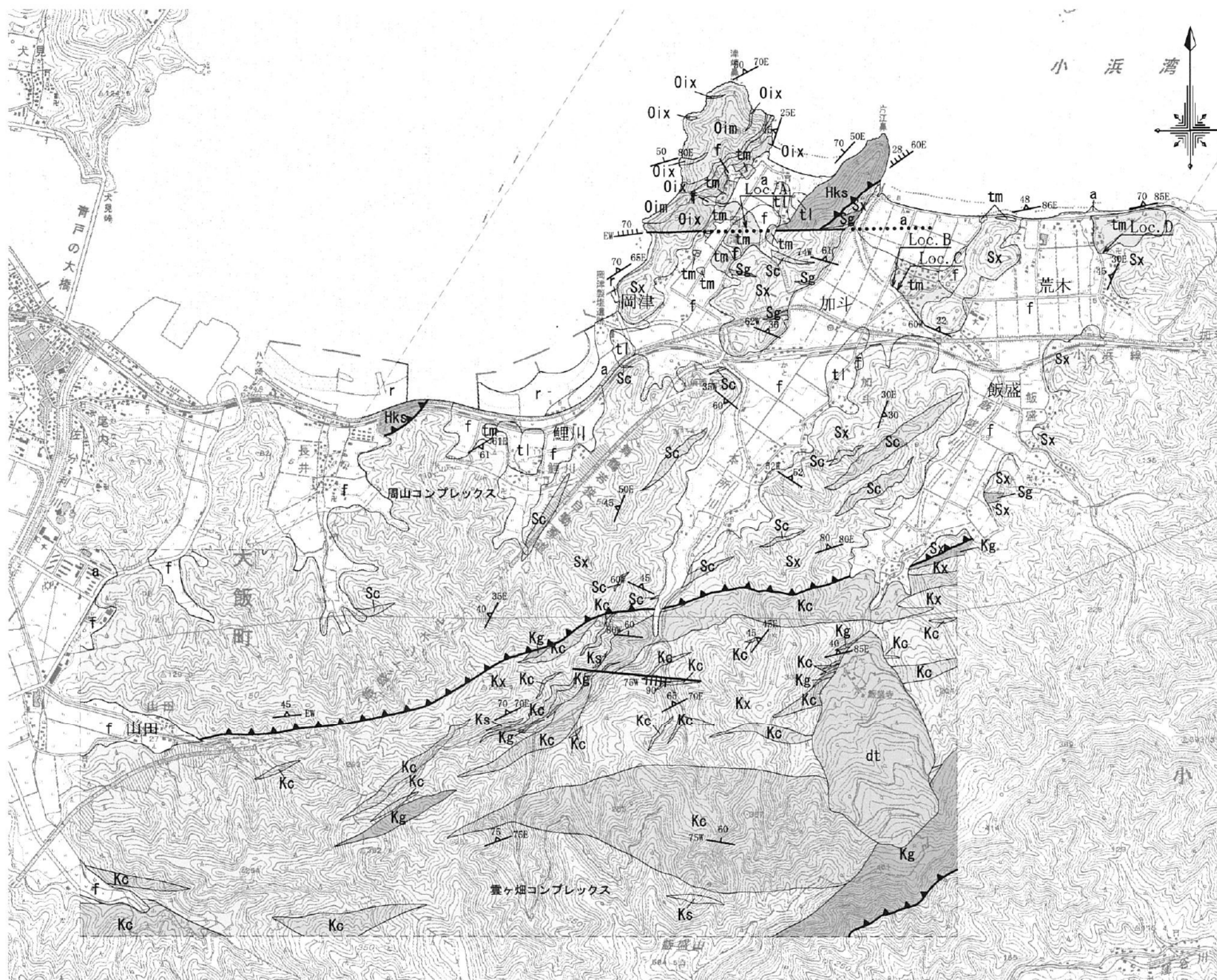
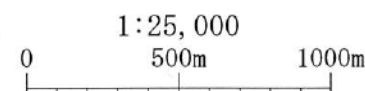
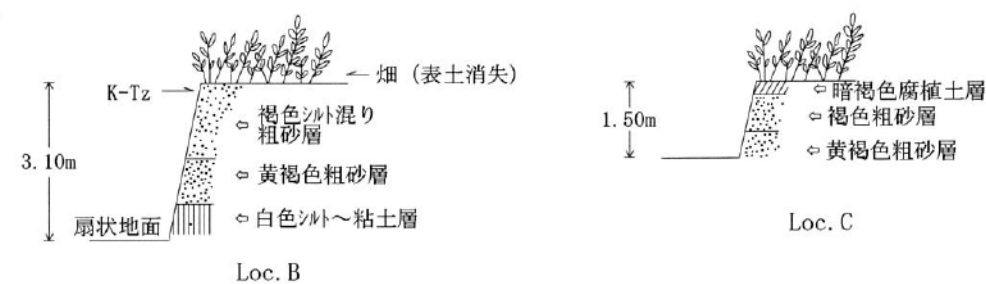
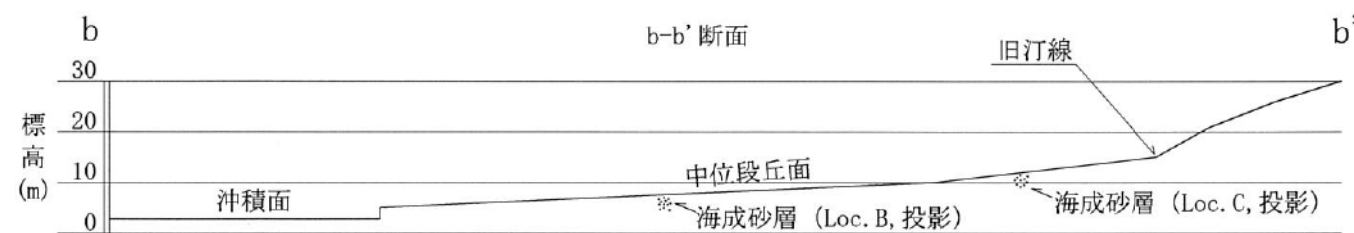
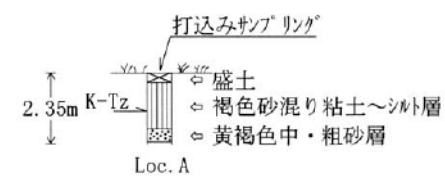
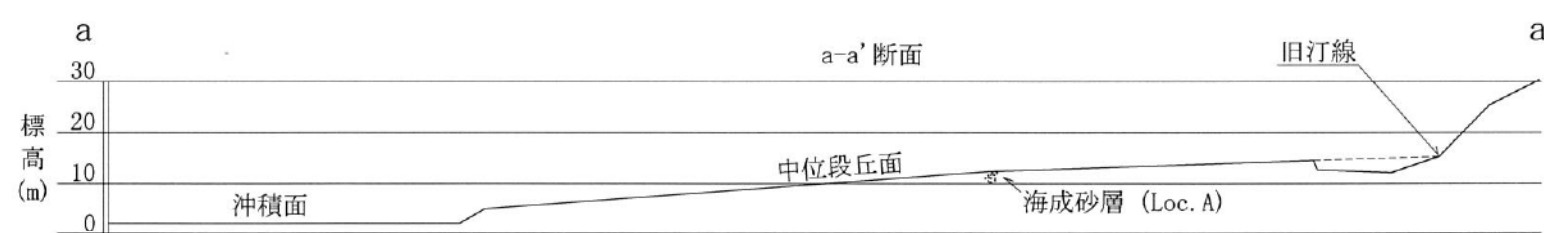
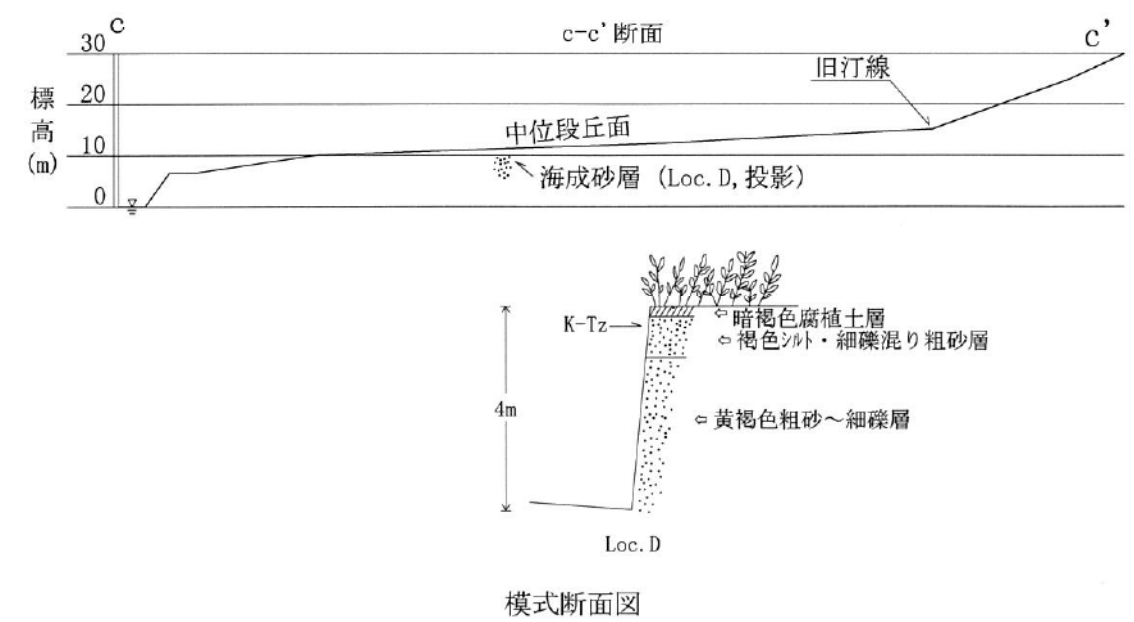
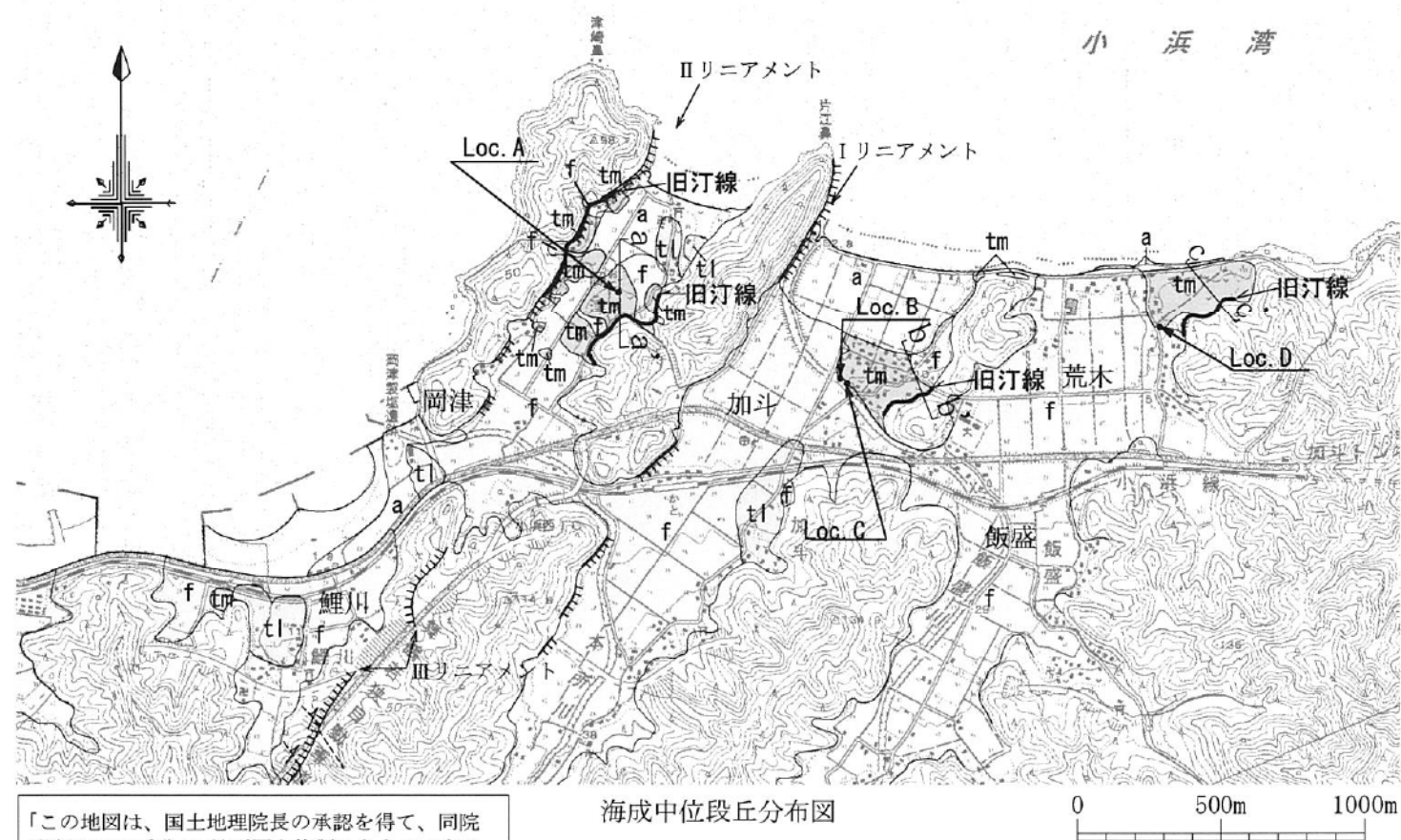




「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」



第1.3.91図 加斗リニアメント周辺の地質図



凡例

- tm 中位段丘面
- tl 低位段丘面
- f 新期扇状地面
- a 沖積面
- Dランクのリニアメント

短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。
短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

旧汀線

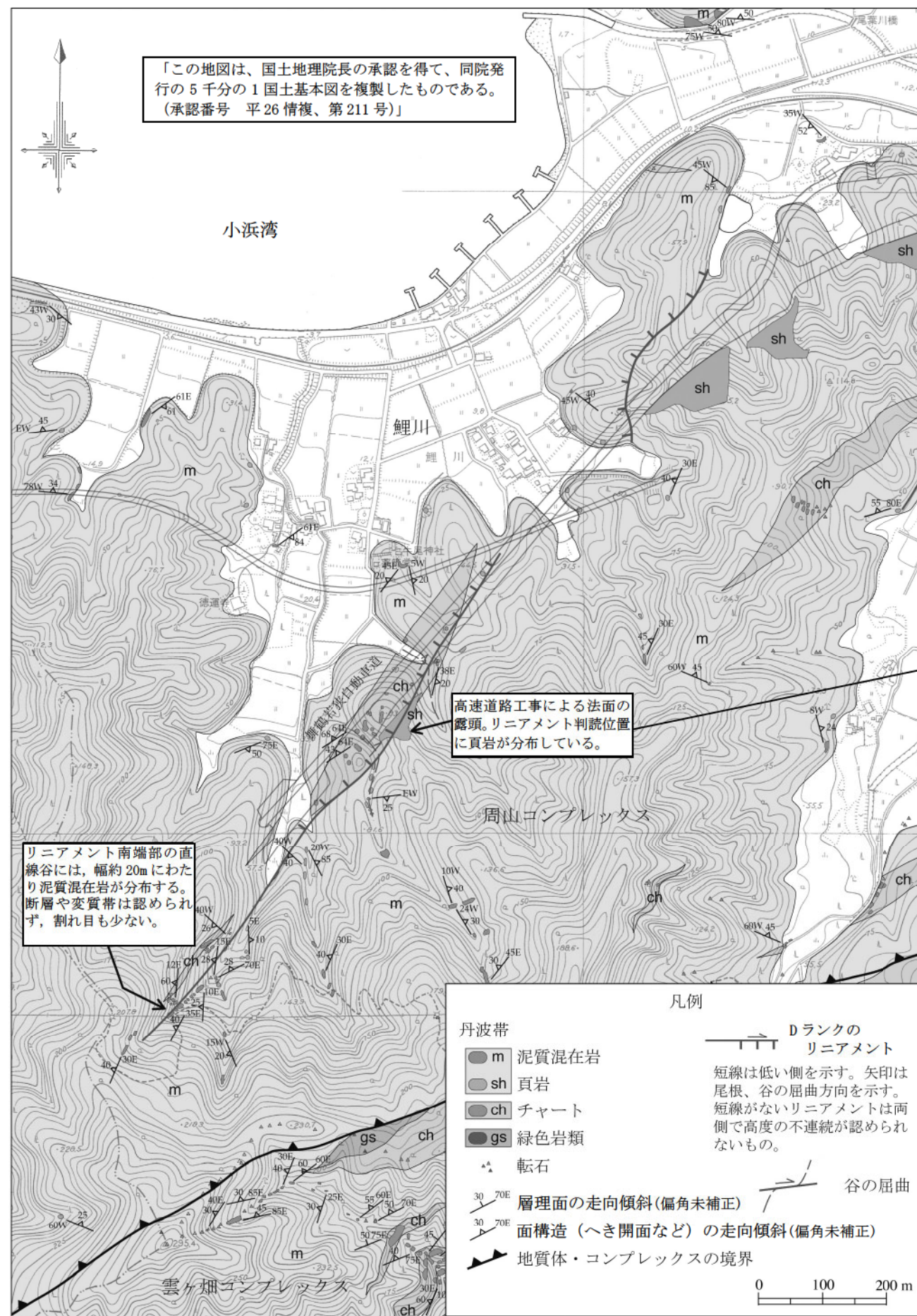
a-a' 断面線

Loc. A 海成段丘堆積物確認位置

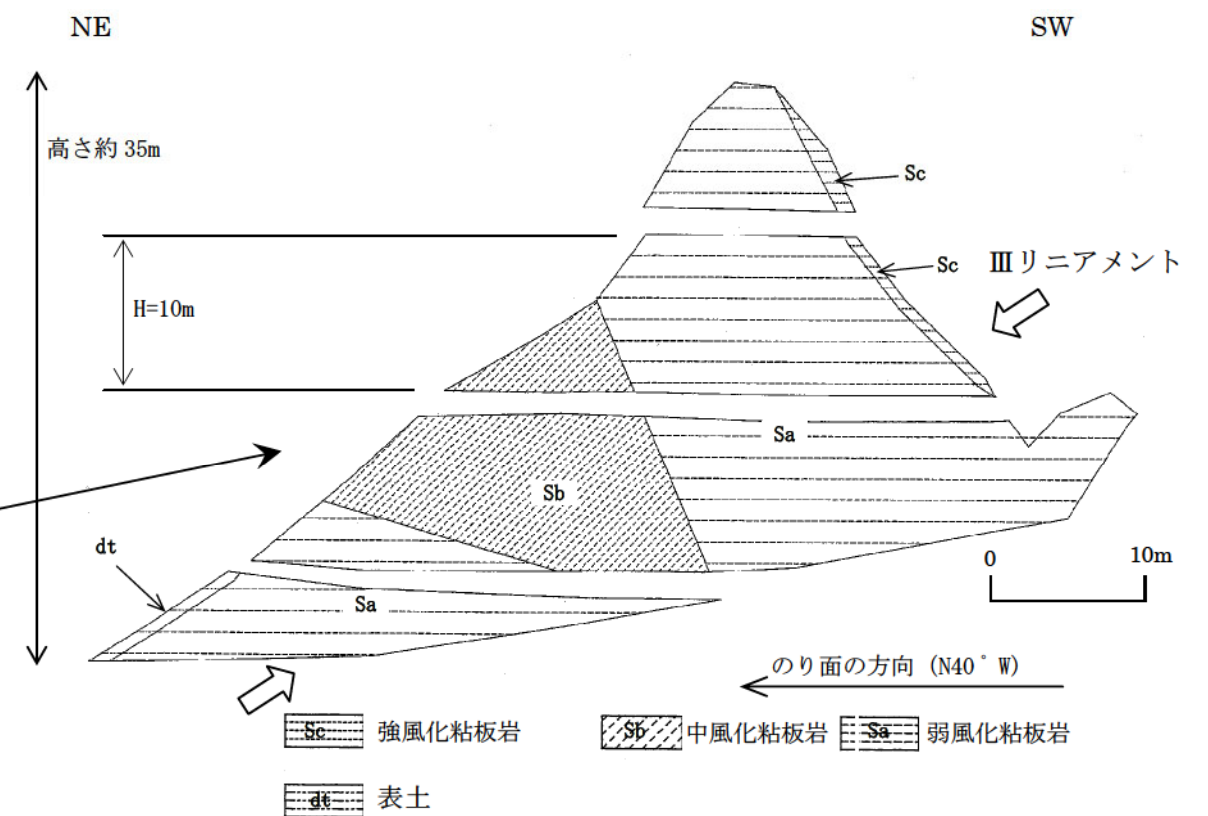
K-Tz → K-Tz降灰層準 (火山灰分析結果)

I リニアメント及びII リニアメント付近に分布する海成中位段丘面の分布高度に有意な差は認められない。

第1.3.92図 加斗リニアメント周辺の海成中位段丘分布図



ルートマップ

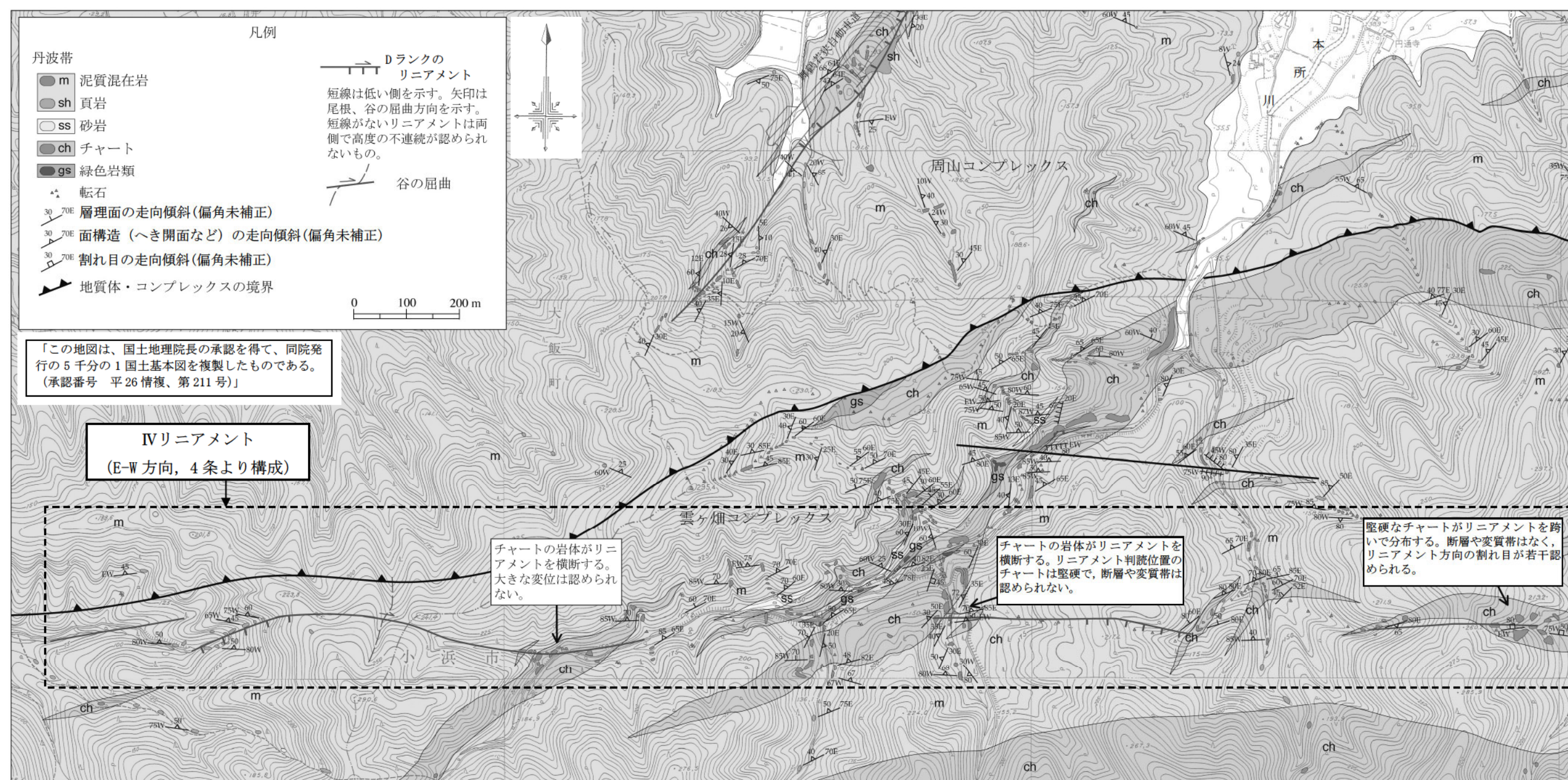


法面スケッチ

(西日本高速道路株式会社殿より提供頂いた舞鶴若狭自動車道工事記録に加筆)

IIIリニアメント沿いの鯉川南方において、2箇所の谷の右屈曲の間に位置する、リニアメント判読位置にある高速道路切土法面(長さ約70m)の施工記録によれば、北西向きの法面には一部やや風化を受けた頁岩が分布しているが、断層は記載されていない。

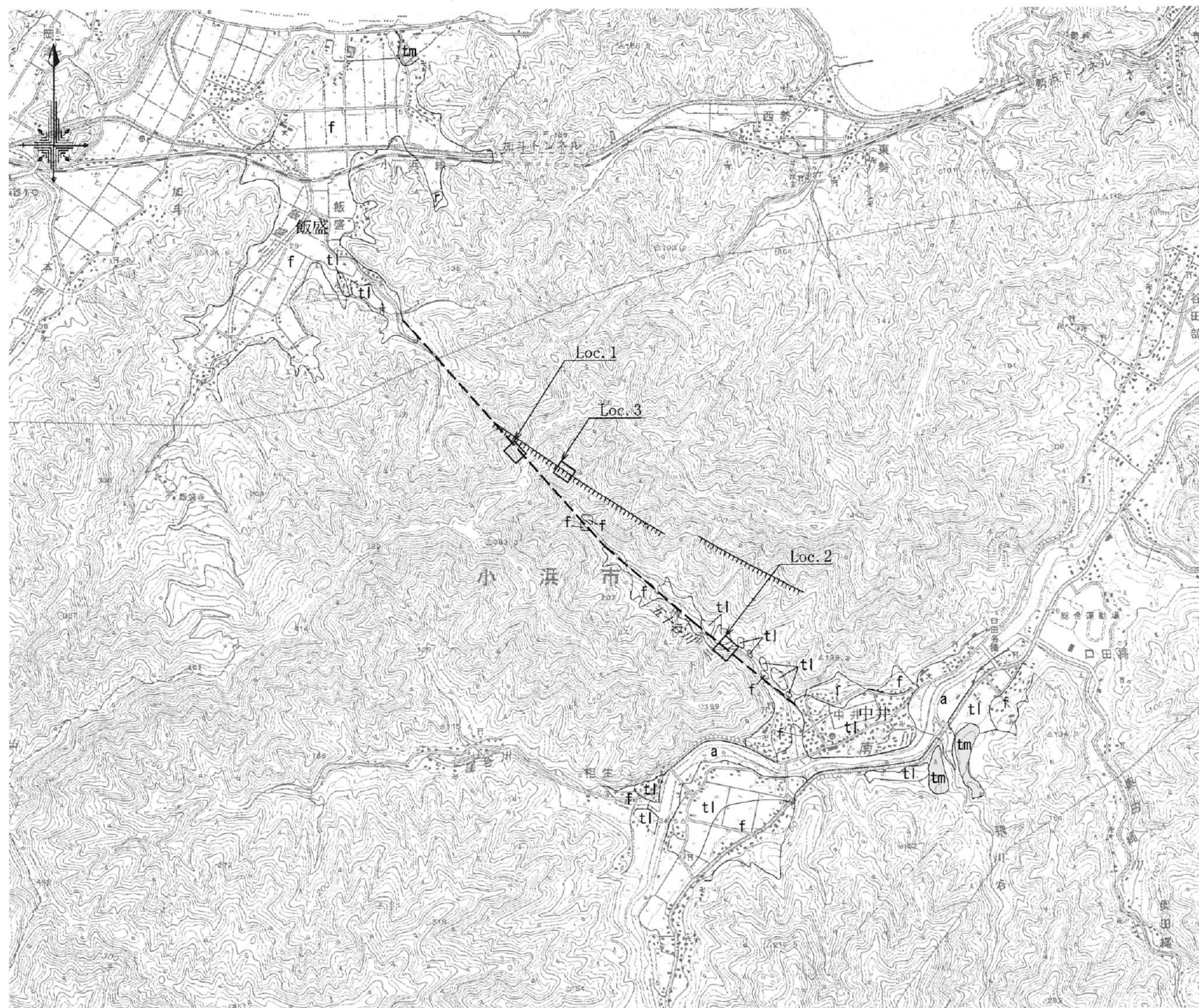
第 1.3.93 図 加斗リニアメント ルートマップ・法面スケッチ (IIIリニアメント)



IVリニアメント沿いの本所川上流地域では、丹波帯の泥質混在岩、チャート、緑色岩類、砂岩が分布する。

リニアメントを横断して分布するチャートには断層や変質帯は認められず、断層を示唆する変位はみられない。

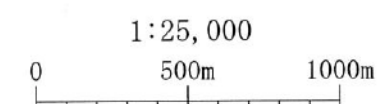
第 1.3.94 図 加斗リニアメント ルートマップ (IVリニアメント)



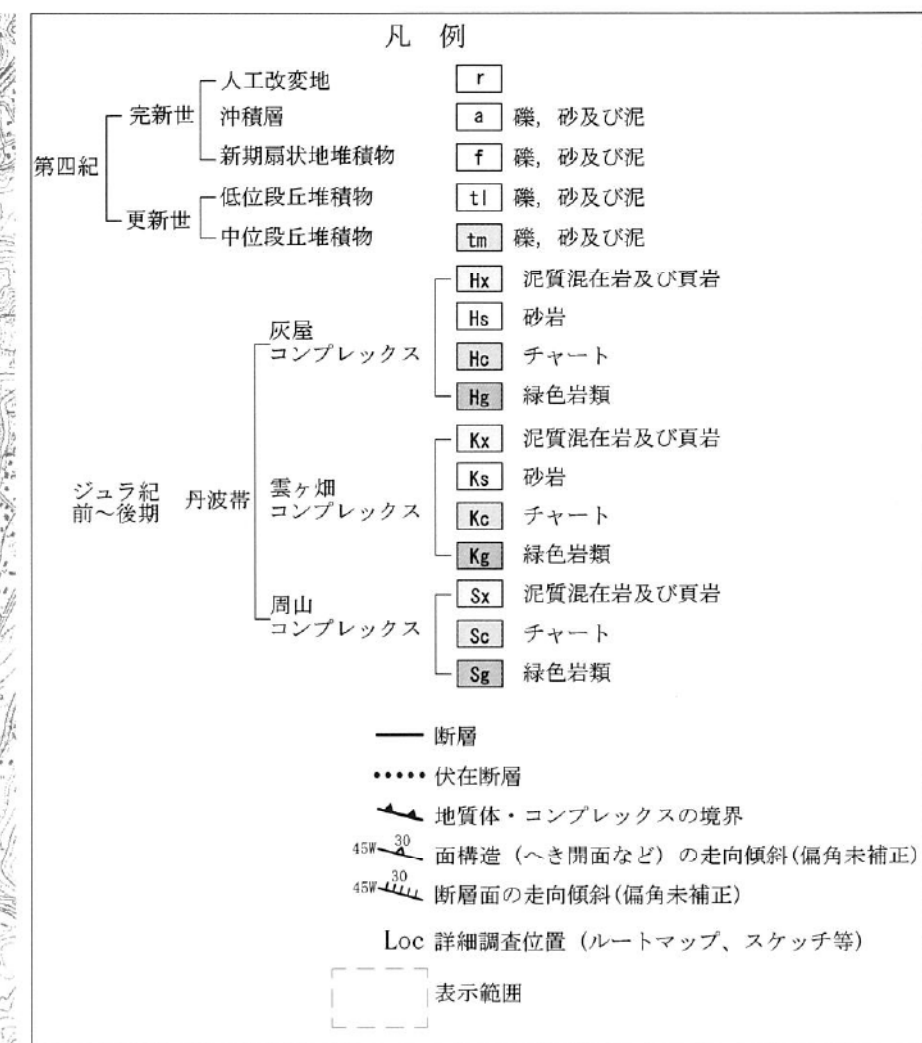
地形面の凡例	
tm	中位段丘面
tl	低位段丘面
f	新期扇状地面
a	沖積面
r	人工改変地

変動地形・リニアメントの凡例	
	Dランク 短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
	主なリニアメント 岡田・東郷編(2000) ⁽³⁹⁾ に記載されている 断層組織地形を転記したもの
Loc	詳細調査位置(ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

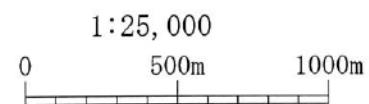
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」



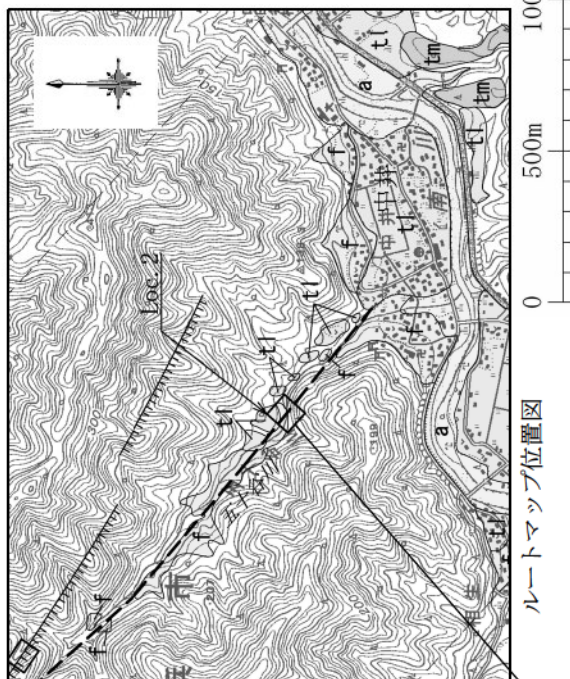
第1.3.95図 中井リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院
発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

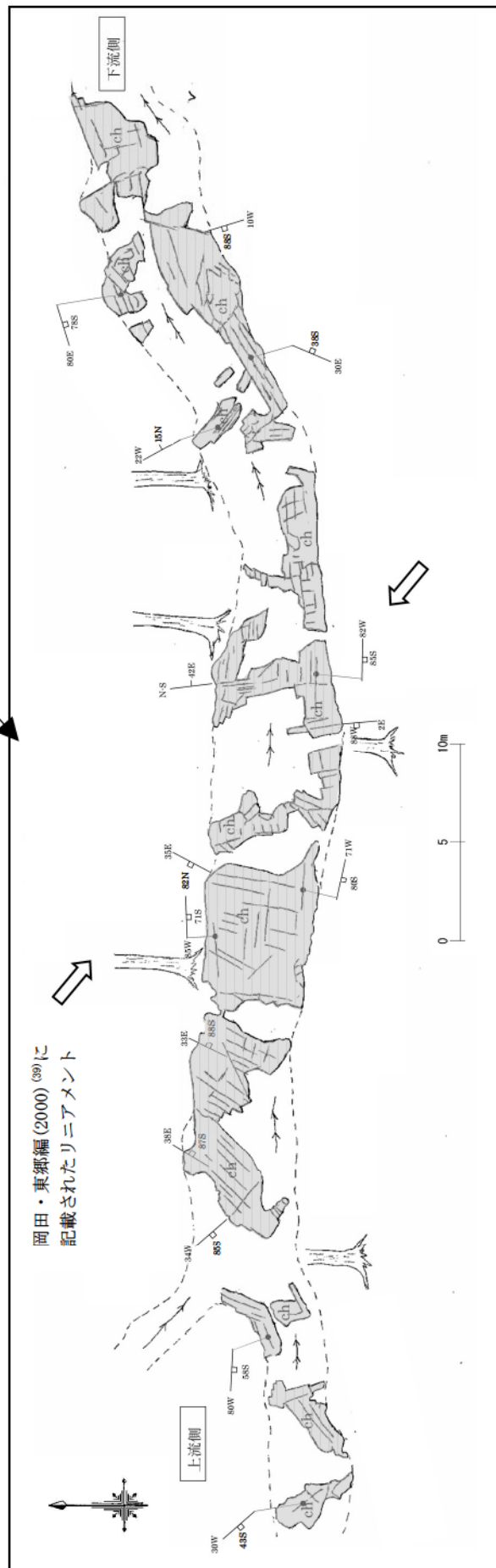
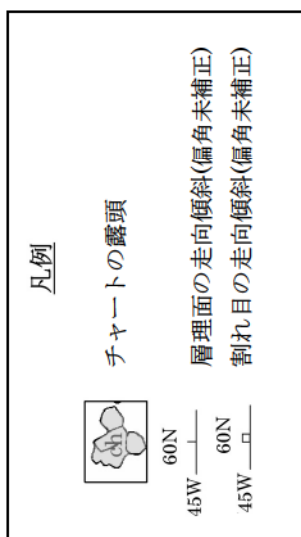


第1. 3. 96図 中井リニアメント周辺の地質図

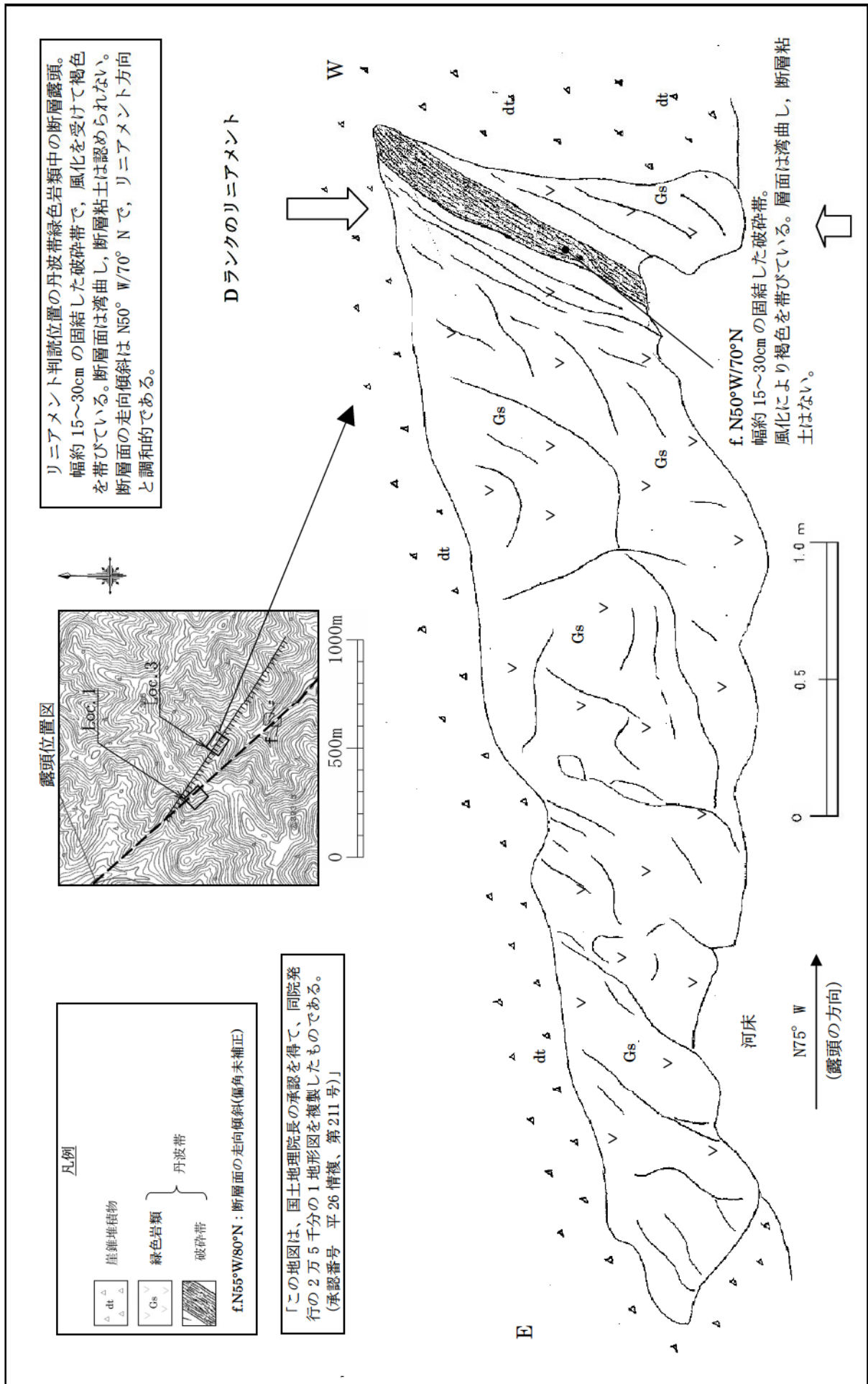


リニアメント直交方向に長さ約 55m のほぼ連続した露頭を確認した。
河床にはチャートの露頭が密に分布し、断層は認められない。割れ目の方向とリニアメントの方向は一致しない。

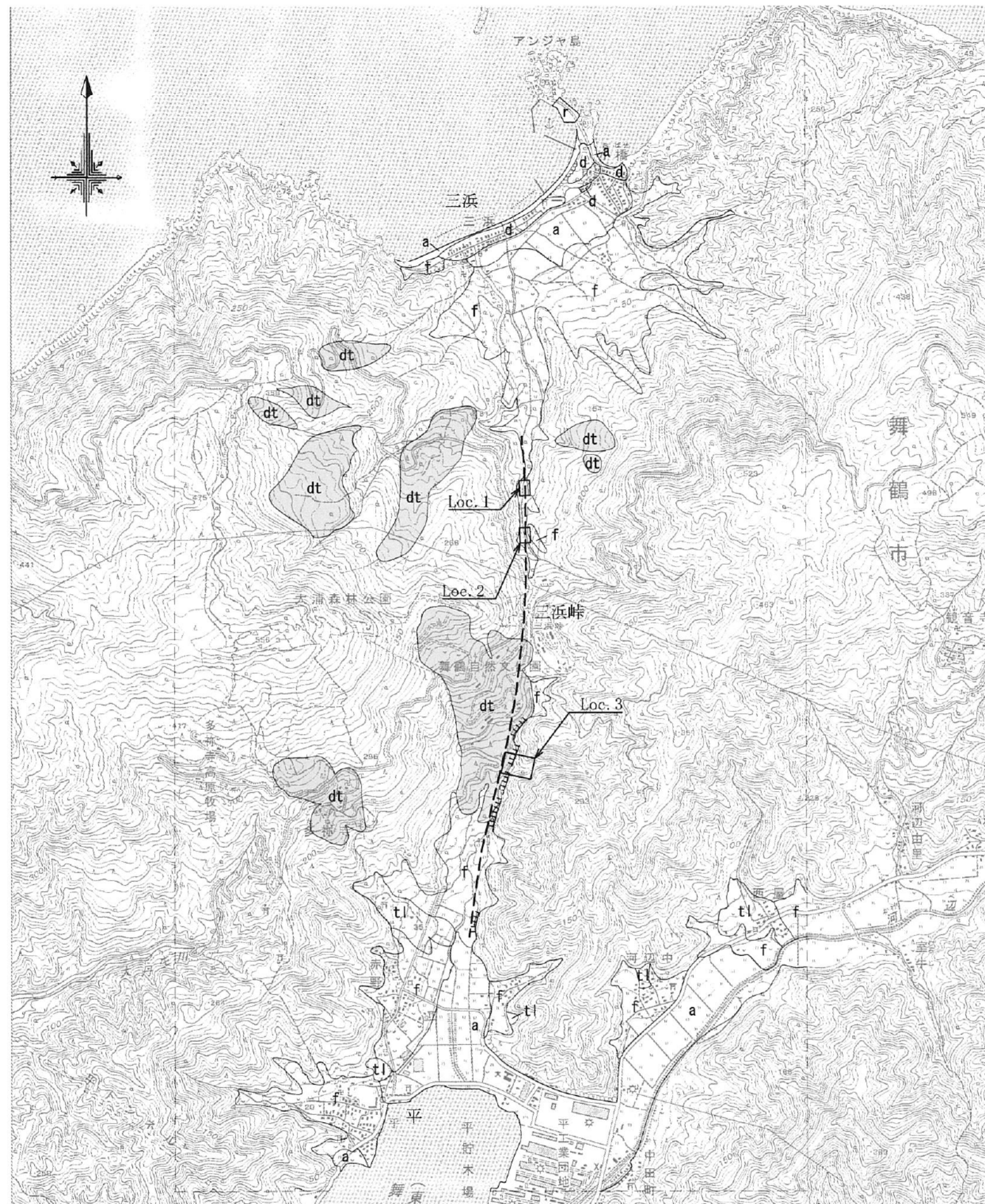
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図を複製したものである。
(承認番号 平 26 情復、第 211 号)」



第 1.3.98 図 中井リニアメント ルートマップ (Loc. 2)



第1.3.99 図 中井リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 3)



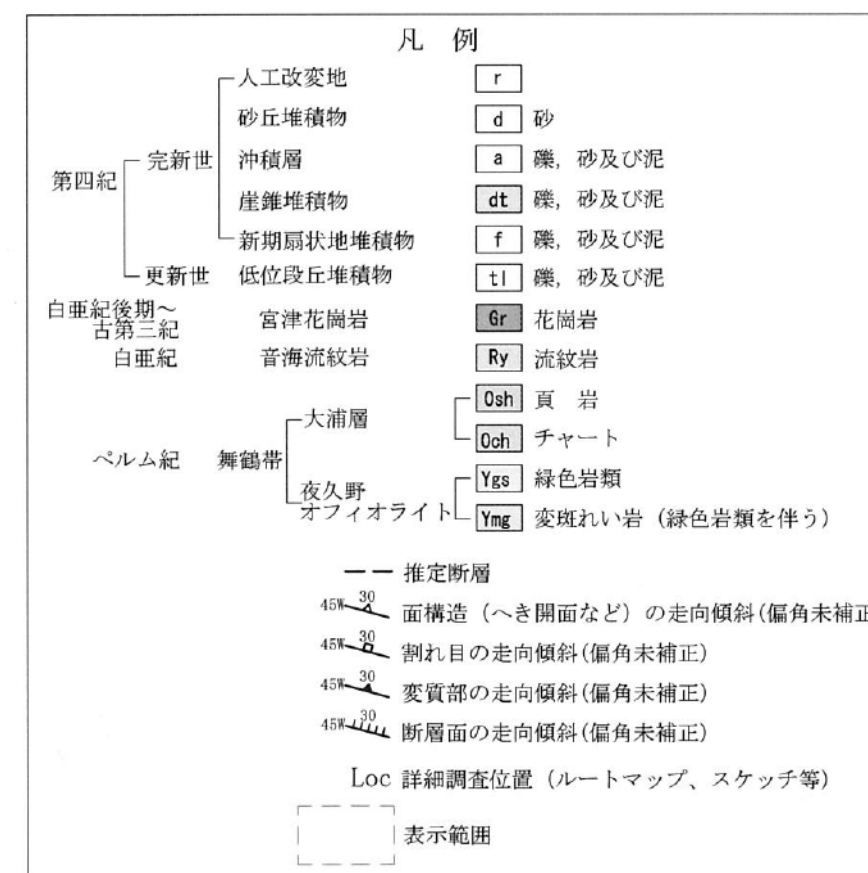
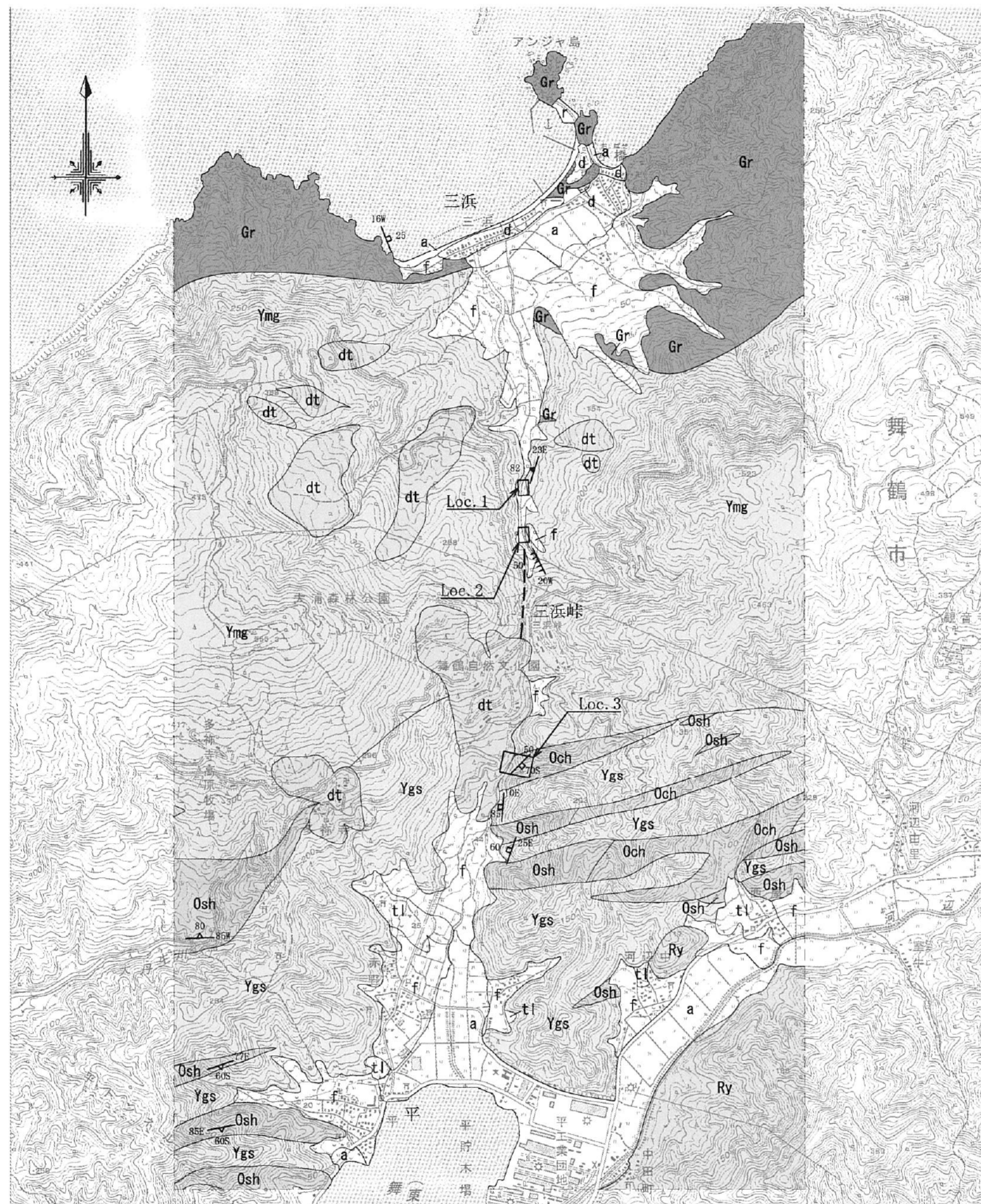
地形面の凡例	
[tl]	低位段丘面
[f]	新期扇状地面
[dt]	崖錐面
[a]	沖積面
[d]	砂丘
[r]	人工改変地

変動地形・リニアメントの凡例	
———	Dランク
	短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
---	主なリニアメント
	岡田・東郷編(2000) ⁽³⁰⁾ に記載されている断層組織地形を転記したもの
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
[]	表示範囲

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」

1 : 25,000
0 500m 1000m

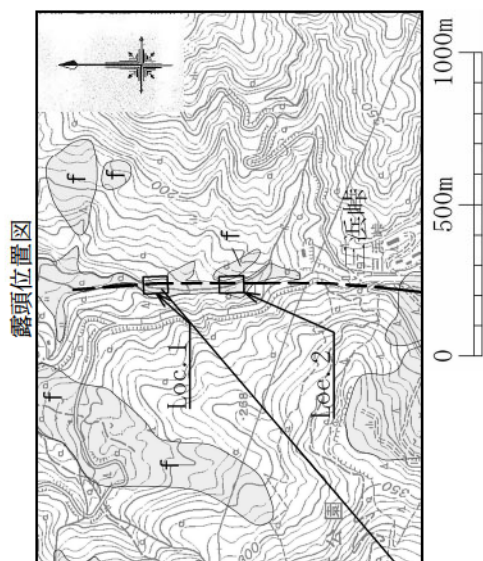
第1.3.100図 三浜峠リニアメント周辺の地形調査結果



第1.3.101図 三浜峠リニアメント周辺の地質図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

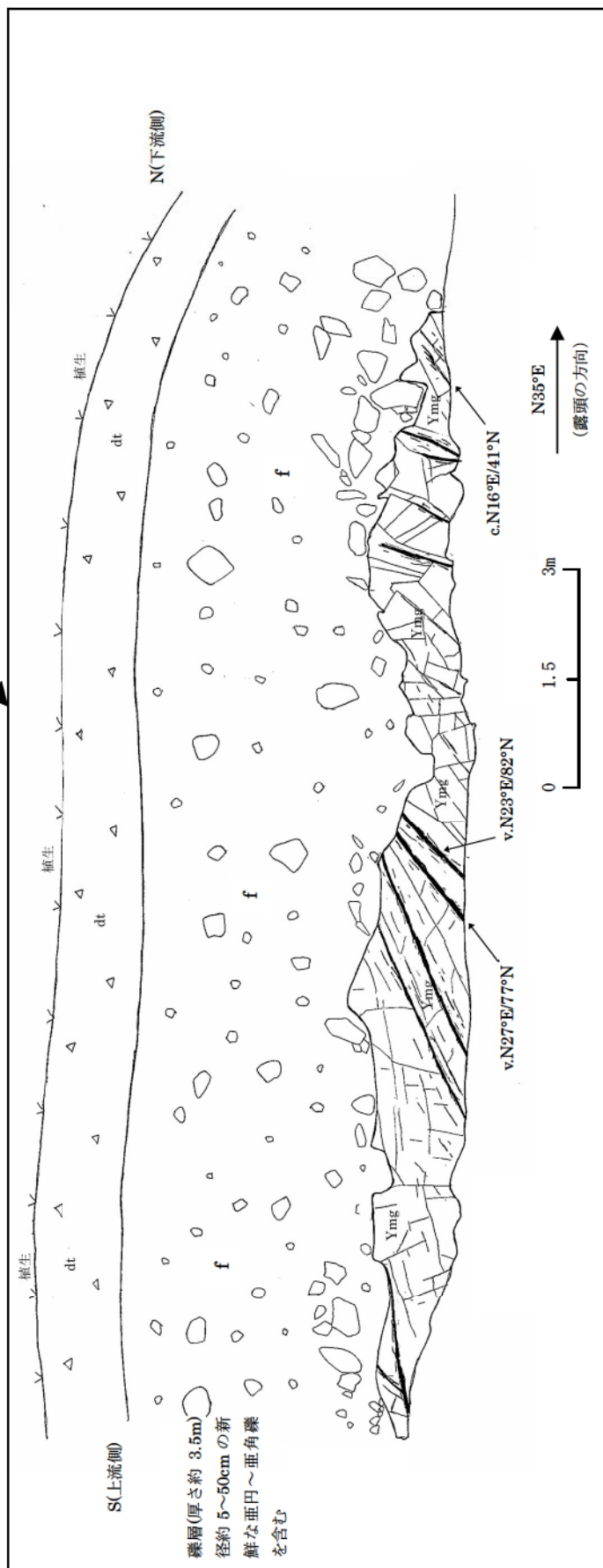
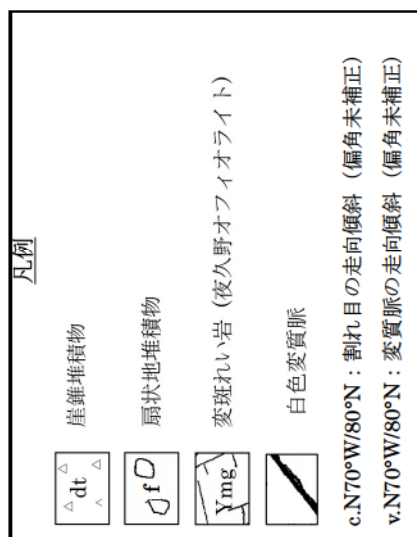
1 : 25,000
 0 500m 1000m



リニアメント記載位置付近で剥ぎ取り調査を実施し、夜久野オフィオライトの変斑れい岩を確認した。

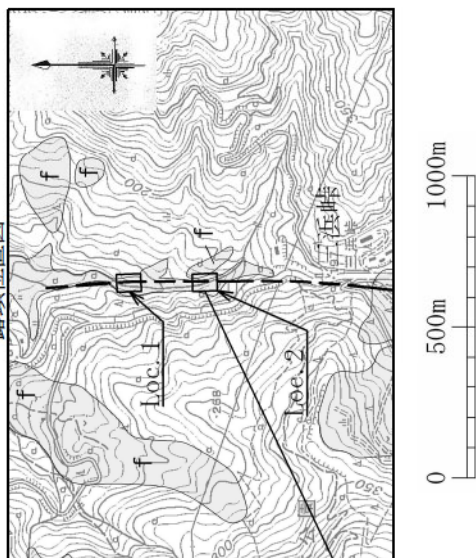
変斑れい岩中には割れ目を充填する白色変質脈が複数認められるが、断層は認められない。割れ目の走向傾斜は、概ね $N16^{\circ} \sim 27^{\circ} E/41^{\circ} \sim 82^{\circ} N$ で、リニアメント方向と概ね調和的である。また、幅数 cm の白色変質脈は周辺の岩盤に比べてやや脆い。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」



第 1.3.102 図 三浜峠リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 1)

露頭位置図



リニアメント記載位置付近で剥ぎ取り調査を実施し、夜久野オフィオライトの緑色岩類中に固結した角礫状破砕部を有する断層を確認した。

断層主部近傍はやや細片化しており、断層から下流側(北側)に離れるに従って細片化の程度が弱くなり図の左側付近で緑色岩に漸移的に変化する。

リニアメント方向に近い断層面 (N20°W/50°S) やリニアメントに斜交する断層面(N40°~70°W/45°~60°S)が認められるが、いずれも固結して湾曲し不明瞭である。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

凡例

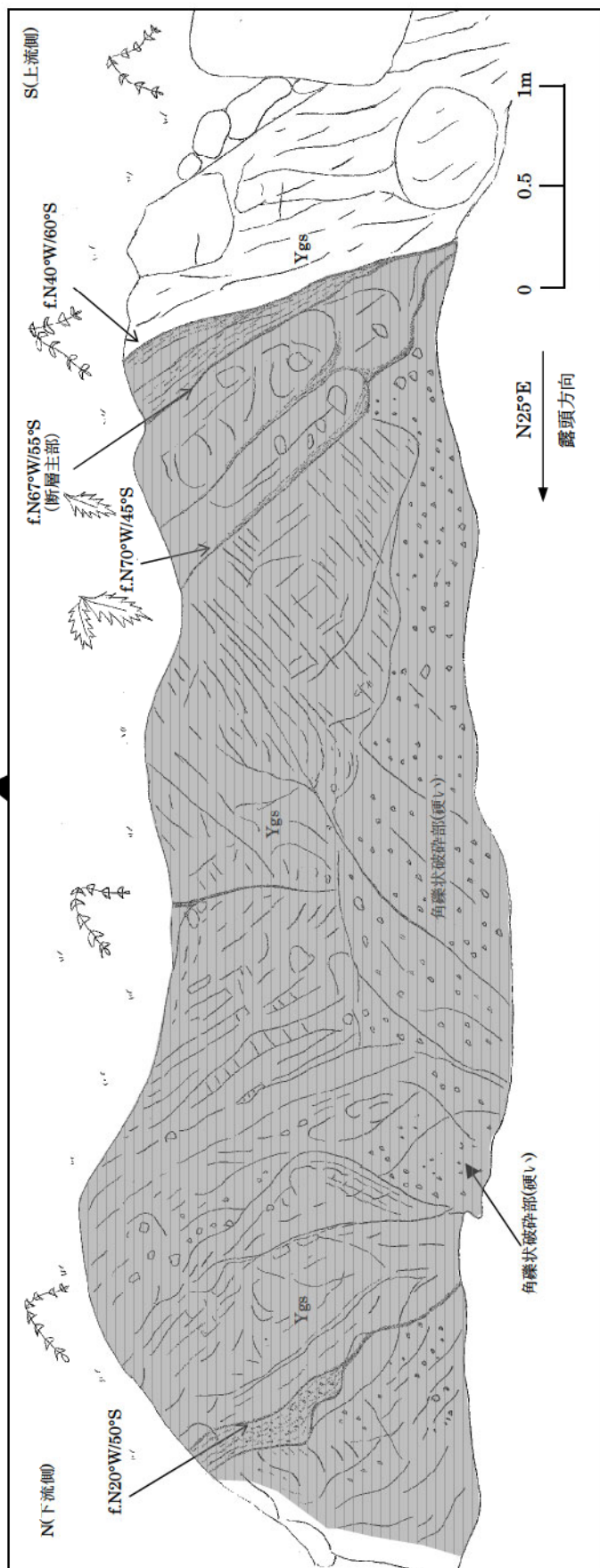
Ygs
緑色岩類 (夜久野オフィオライト)

Ygs
固結した弱破砕部

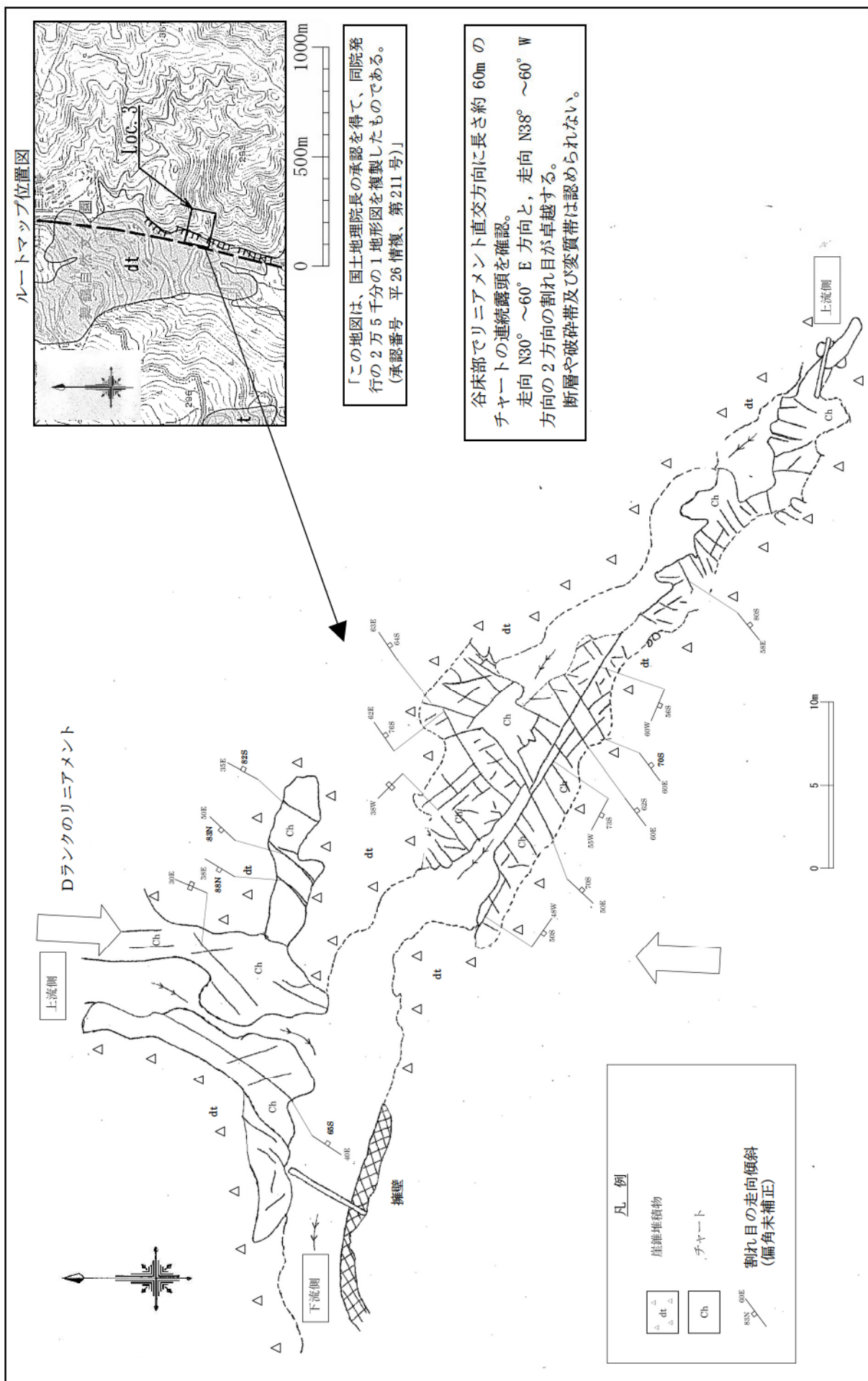
Ygs
固結した細~角礫状破砕部

Ygs
固結した砂~細礫状破砕部

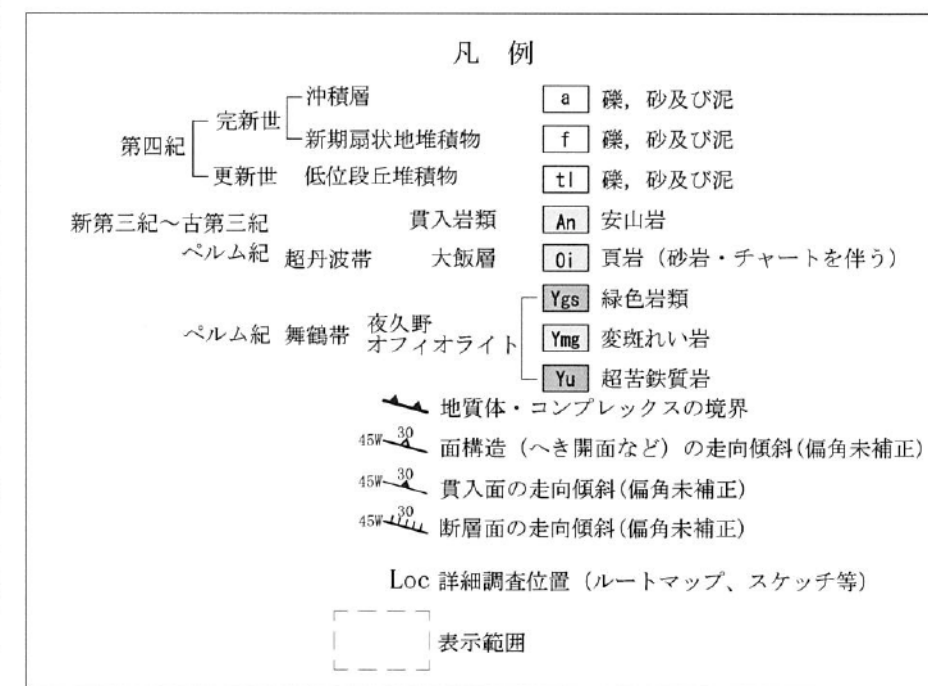
f.N70°W/80°N : 断層面の走向傾斜 (偏角未補正)



第1.3.103図 三浜峠リニアメント 露頭スケッチ (Loc.2)



第1.3.104図 三浜峠リニアメント ルートマップ (Loc. 3)

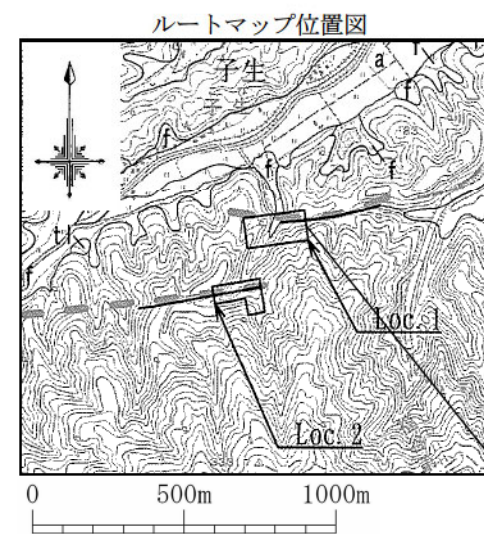


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」

1:25,000

0 500m 1000m

第1.3.106図 子生リニアメント周辺の地質図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」



A 破砕部写真



B 破砕部写真



E 破砕部写真



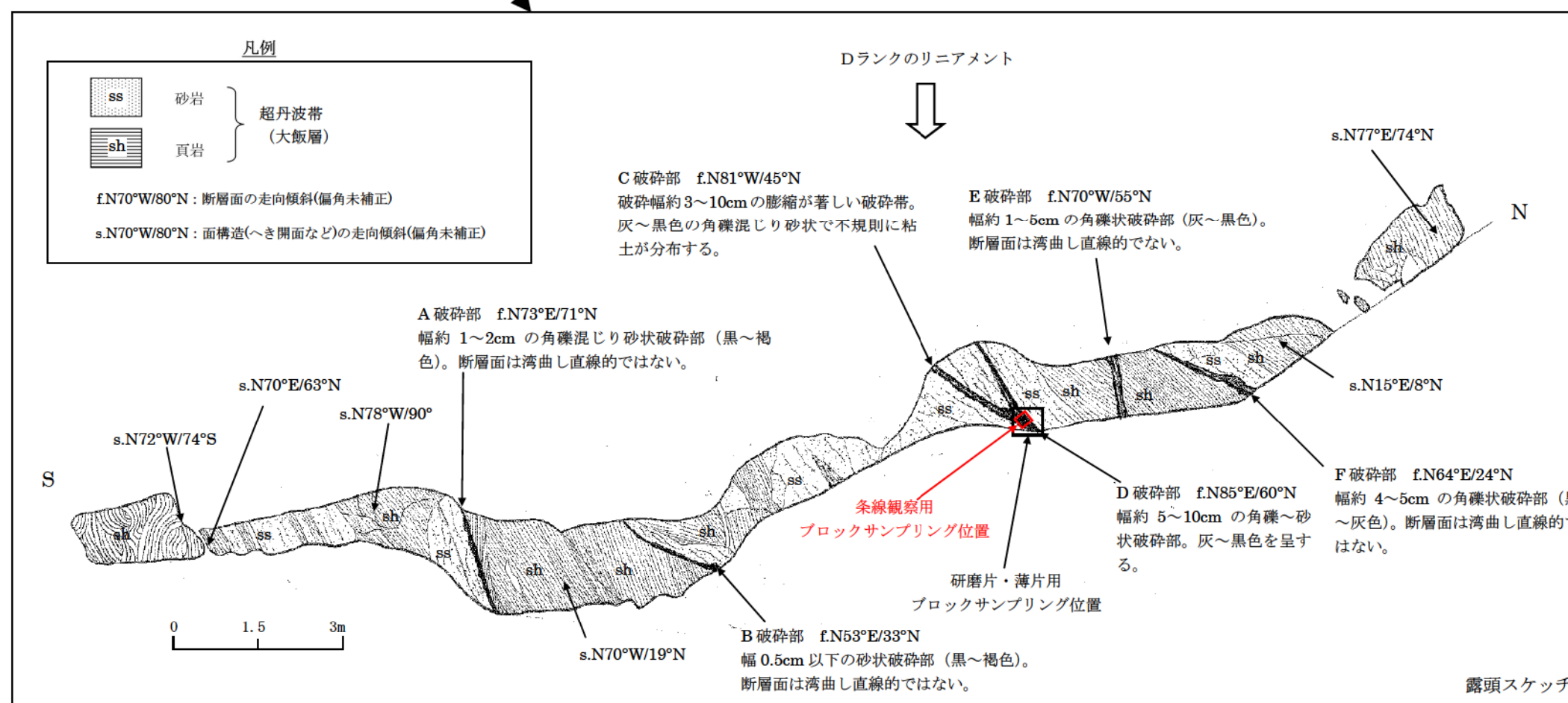
F 破砕部写真



C, D 破砕部写真 C 破砕部が D 破砕部をせん断する。



逆断層成分を示す引きずり構造と R1 面
(観察面の勾配 70° E)

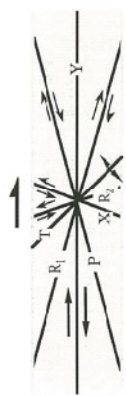


本地点はリニアメントを挟んで約 20m の連続露頭である。

地質は超丹波帯の頁岩と砂岩で、6ヶ所の破砕部が認められる。断層面の走向は N53° E~N70° W でリニアメント方向 (N80° E) と概ね調和的である。断層面は湾曲や凹凸を示す。各破砕帯は幅数 cm~10cm 程度で破砕された頁岩が角礫混じり砂状ないし角礫状を呈する。

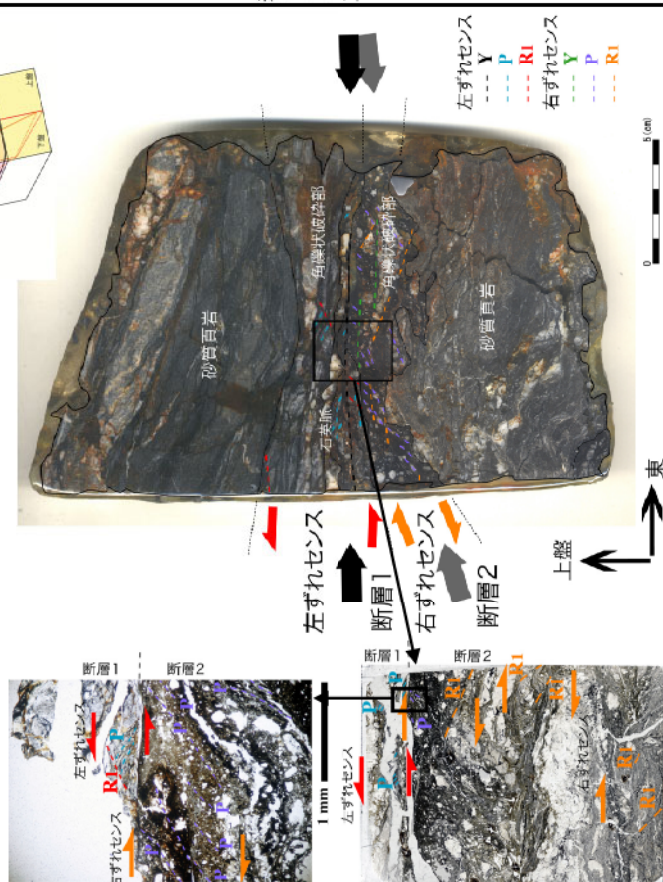
リニアメント判読位置には C 破砕部と D 破砕部が認められる。D 破砕部は C 破砕部にせん断される。C 破砕部中の灰白色粘土 (幅 1~2cm) を伴う断層面でブロックをサンプリングし、変形組織の観察及び条線観察を実施した。

第1.3.107図 子生リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 1)



せん断セシスを示す複合面構造 (狩野・村田、1998 (150))

研磨片 (横ずれ成分観察用)

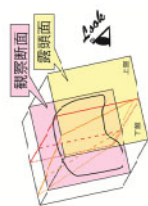


研磨片観察結果

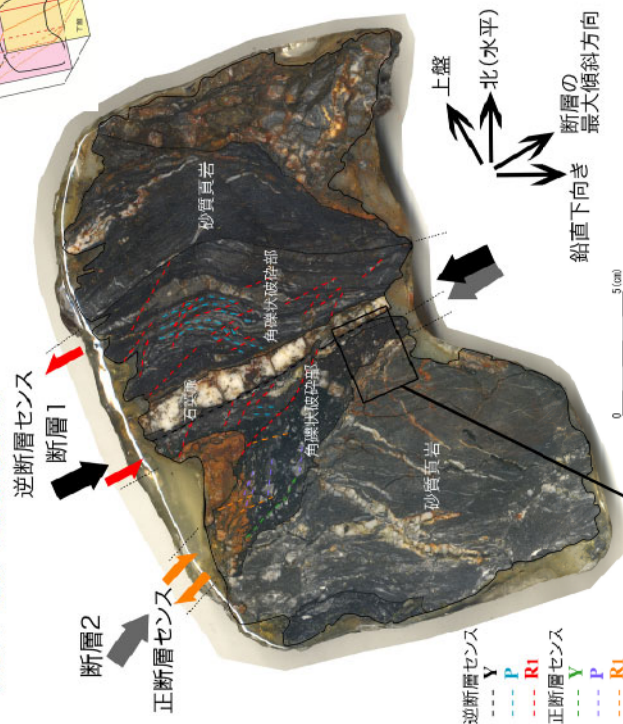
- ・角礫状破砕部からなる。
- ・Y面とP面・R1面の関係から、断層1は左ずれセシスを示し、断層2は右ずれセシスを示す。

薄片観察結果

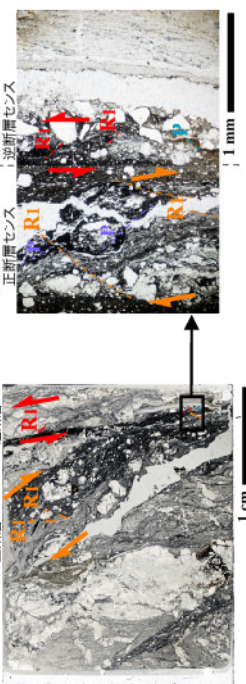
- ・角礫状破砕部は角張った粒子からなり、面状構造が発達することからカタクレーサイトと判断される。
- ・P面とR1面の関係から、断層1は左ずれセシスを示し、断層2は右ずれセシスを示す。



研磨片 (縦ずれ成分観察用)



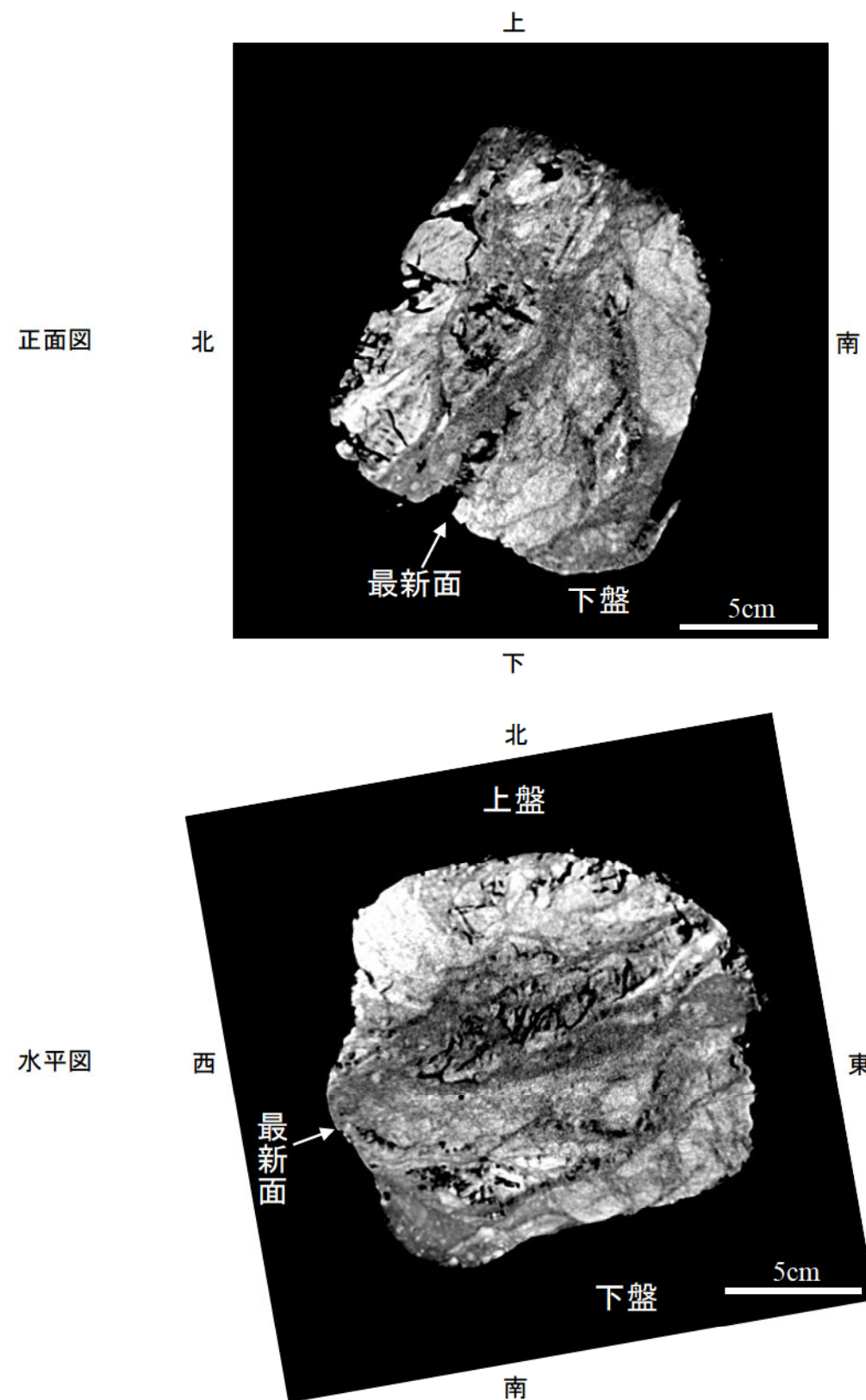
薄片



薄片観察結果

- ・角礫状破砕部は角張った粒子からなり、面状構造が発達することからカタクレーサイトと判断される。
- ・P面とR1面の関係から、断層1は逆断層セシスを示し、断層2は正断層セシスを示す。

最新活動時の運動セシスは、左横ずれ、逆断層セシスである



※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: TN73E/48N(現場での計測データ)

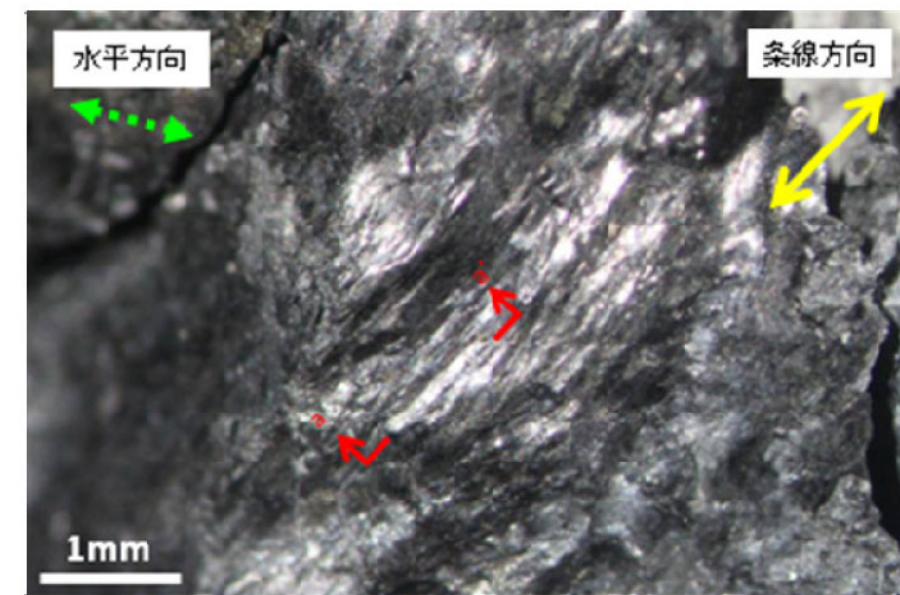
縦ずれ成分: 逆断層, 横ずれ成分: 左横ずれ

最新面はやや湾曲している。

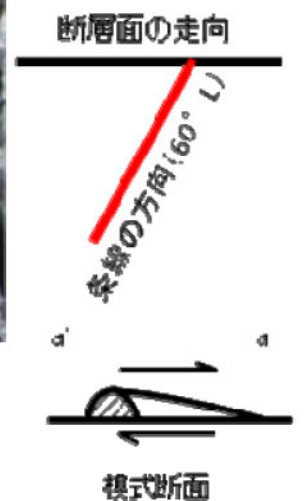
最新面に沿う幅約 2cm 以下のゾーンで密度が低い(粘土状破碎部)。このゾーンは膨縮する。



CB-B1 (下盤上面)

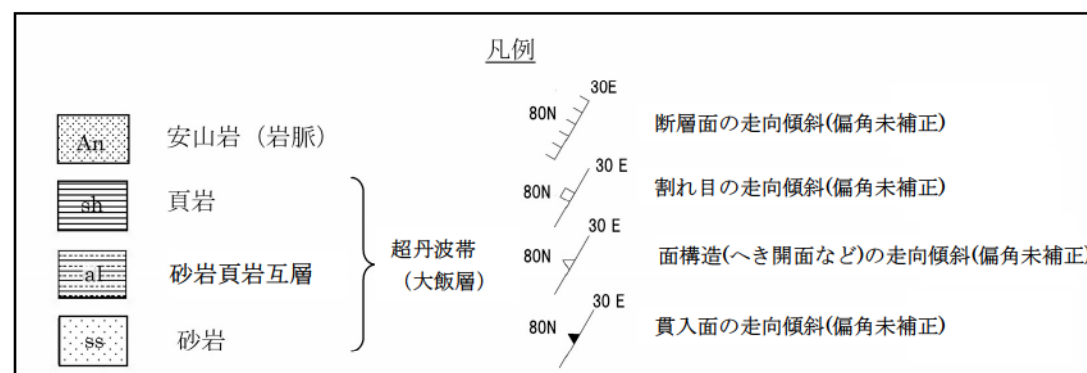
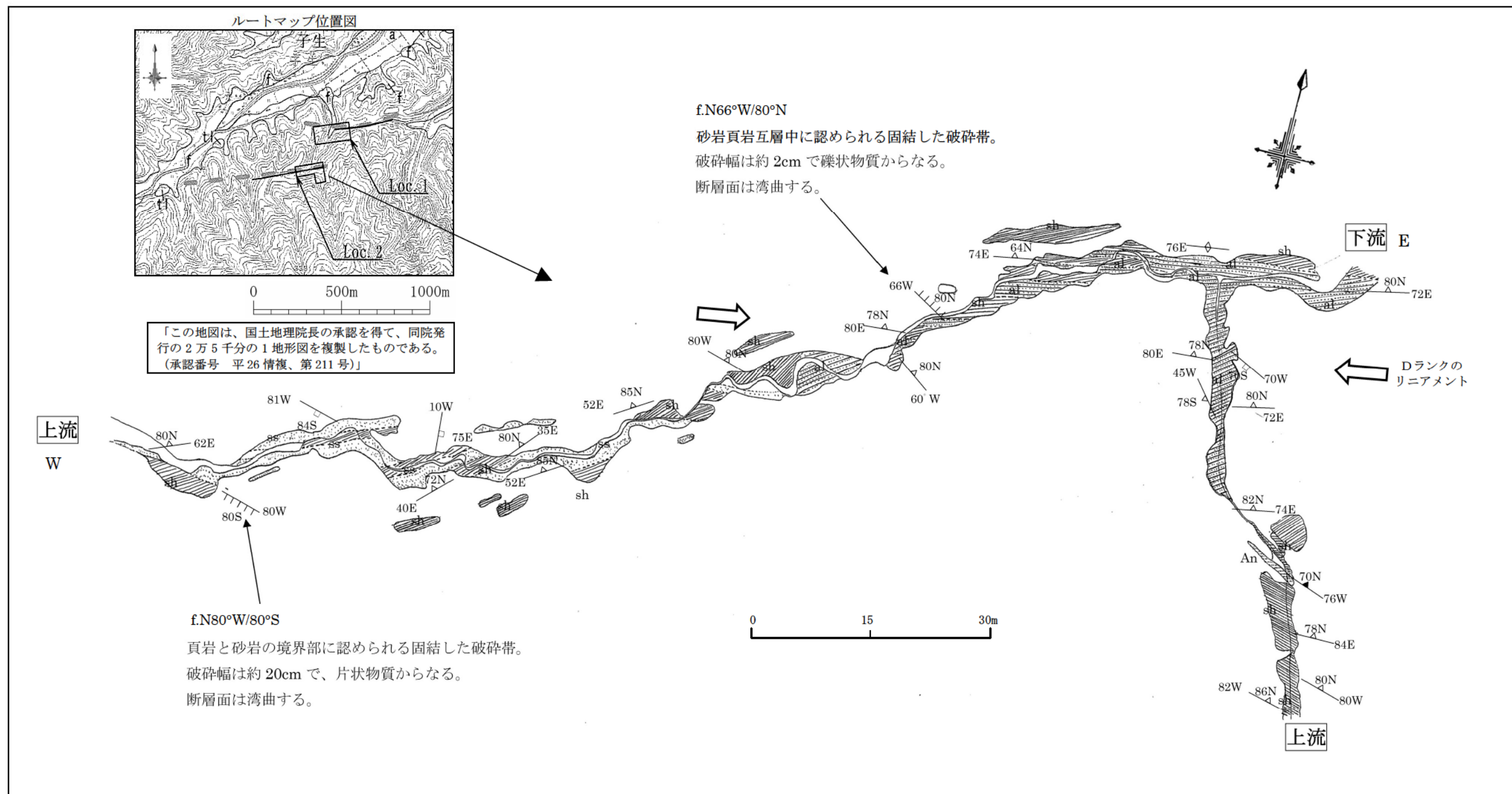


断層面の状況
左横ずれ逆断層



- ・条線観察の結果、条線のレイクは 60° L であり、運動センスは左横ずれ逆断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

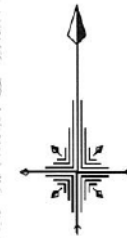
第1.3.109図 子生リニアメント 条線観察結果 (Loc. 1、CB-B1 試料)



河床および河岸斜面において剥ぎ取り調査を実施し、リニアメント直交方向に長さ約60mにわたり、砂岩と頁岩の連続露頭を確認した。ここに2条の断層が認められ、破碎帯の幅はそれぞれ約2cmと約20cmである。断層面の走向傾斜はN66°W/80°NとN80°W/80°Sで、リニアメント方向(N80°E)とほぼ調和的である。断層面は湾曲し、いずれの破碎帯も固結している。

リニアメント判読位置付近には、約1~2cm間隔で発達する頁岩及び砂岩頁岩互層中のへき開面が顕著である。リニアメント通過付近のへき開面の卓越方向はE-Wで、北側に高角度で傾斜しており、リニアメント方向と調和的である。

第1.3.110図 子生リニアメント ルートマップ (Loc. 2)



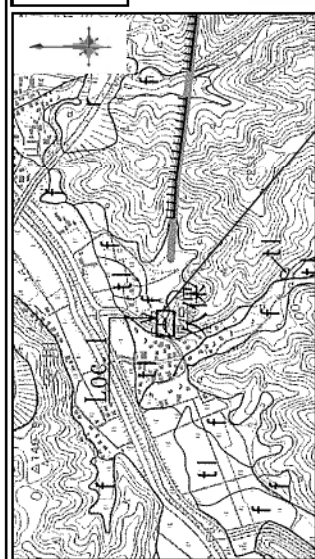
1:25,000
0 500m 1000m

変動地形・リニアメントの凡例	
	Dランク
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。	
	連続性に富むシャープなリニアメント (L)
岡田・東郷編(2000) ⁽³⁹⁾ に記載されている断層組織地形を転記したもの	
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

地形面の凡例	
	低位段丘面
	新期扇状地面
	沖積面
	人工改変地

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

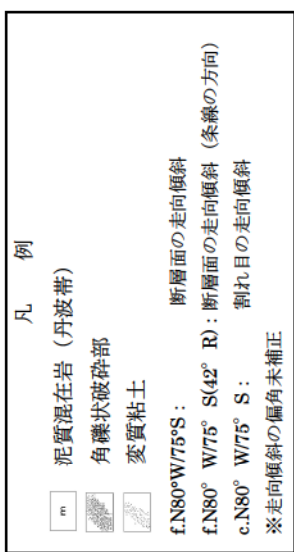
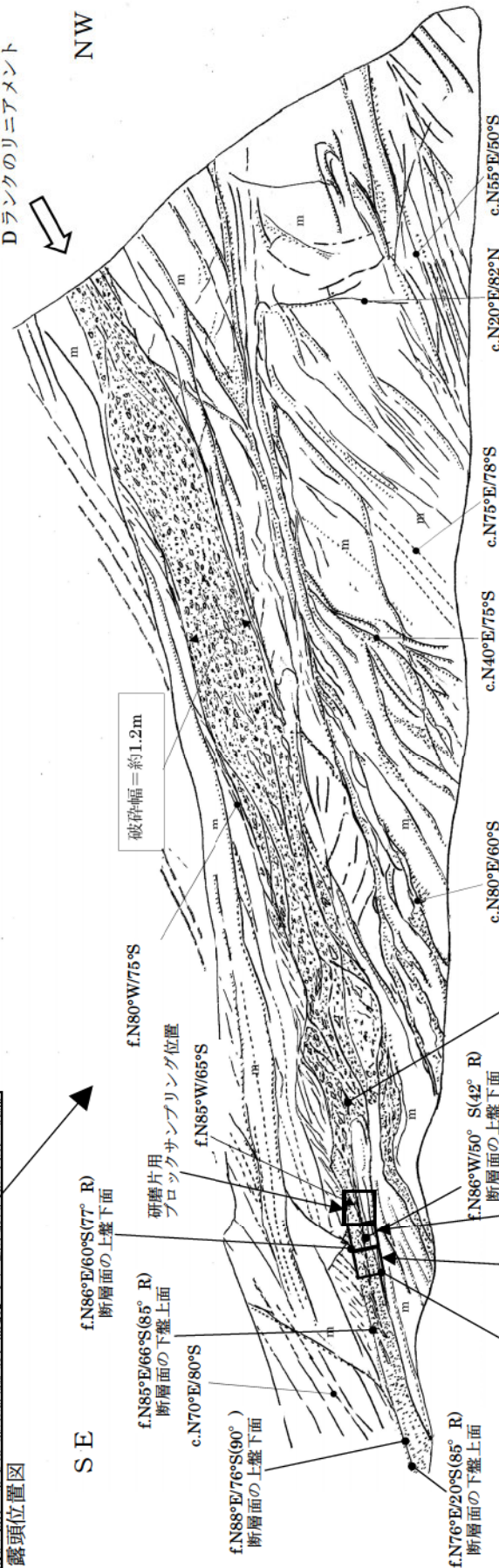
第1.3.111図 石山坂峠北リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平 26 情 復、第211号)」

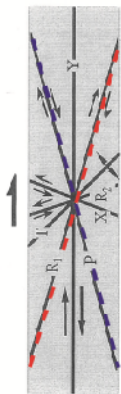
露頭位置図

SE
NW
Dランクのリニアメント



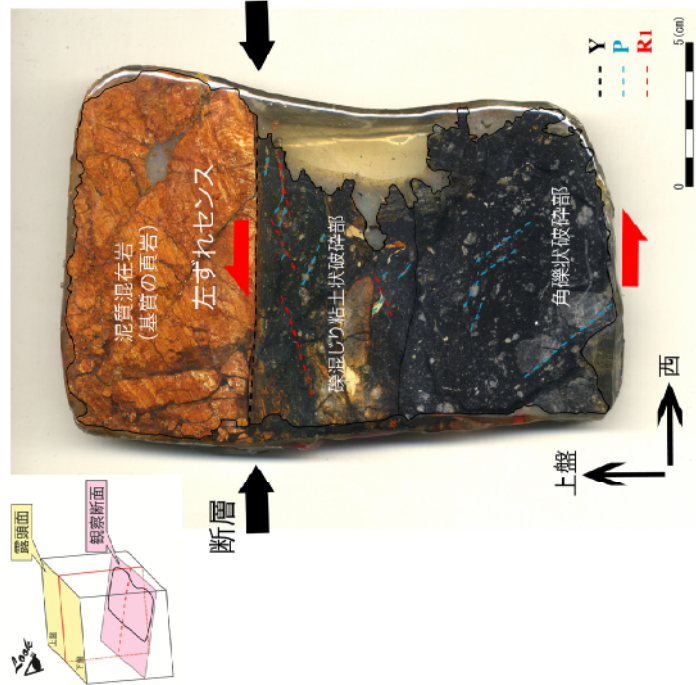
リニアメント判読位置の泥質混在岩(丹波帯)中の破砕帯露頭。
幅約1.2mの黒色を帯びた破砕帯で、破砕帯を含めた破砕帯周辺幅約4mは、灰色～白色の変質粘土脈が発達する。破砕帯は角礫状を呈し、所々に変質粘土脈が認められ、分布は不規則である。断層面は湾曲し、直線的でない。断層面の走向傾斜はN80° W /75° Sであり、リニアメント方向(N80° W)と調和的である。変質粘土脈は幅約0.5～30cmで、断層面及び割れ目に沿って網目状に分布している。

第 1.3.113 図 石山坂峠北リニアメント 露頭スケッチ(Loc. 1)



せん断センスを示す複合面構造 (狩野・村田、1998 (150) に加筆)

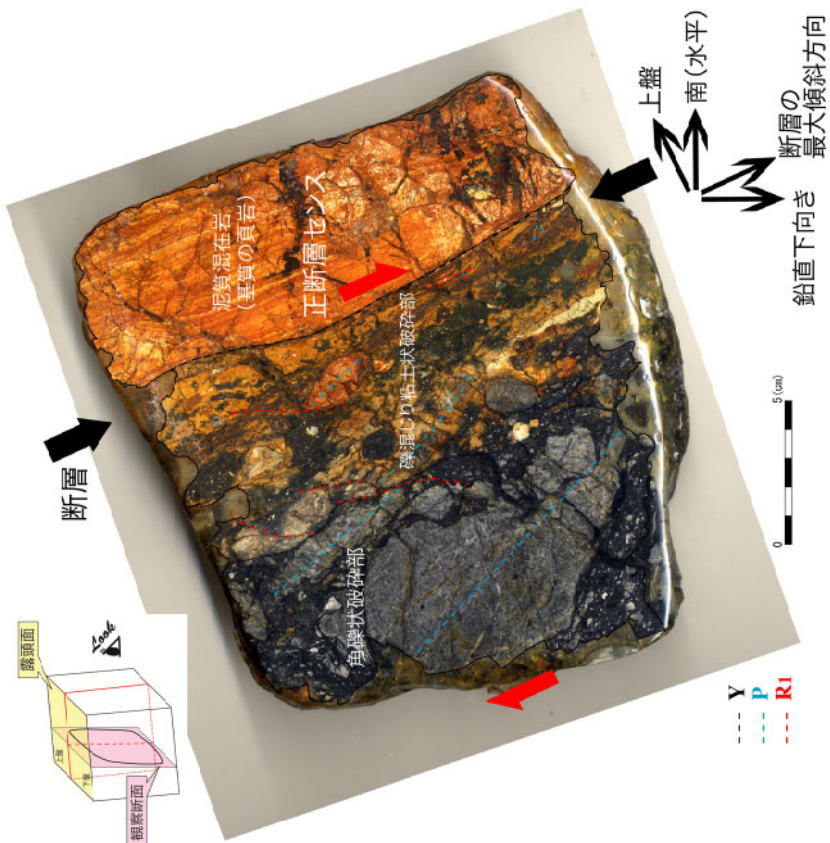
研磨片 (横ずれ成分観察用)



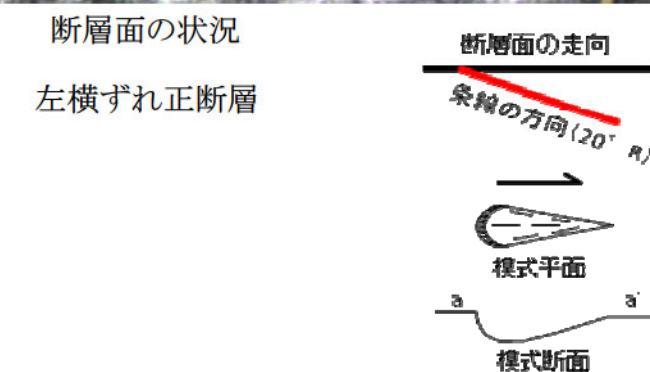
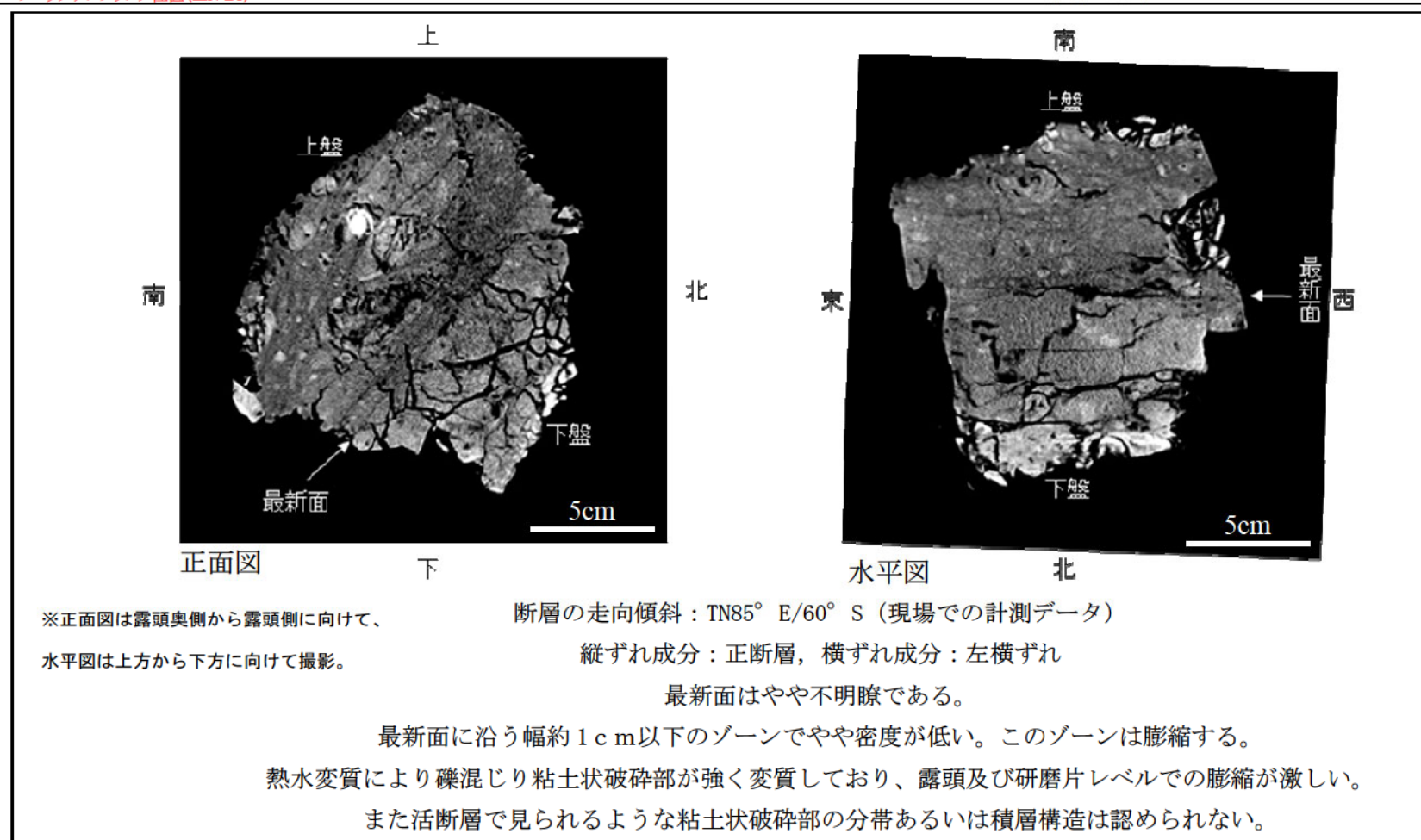
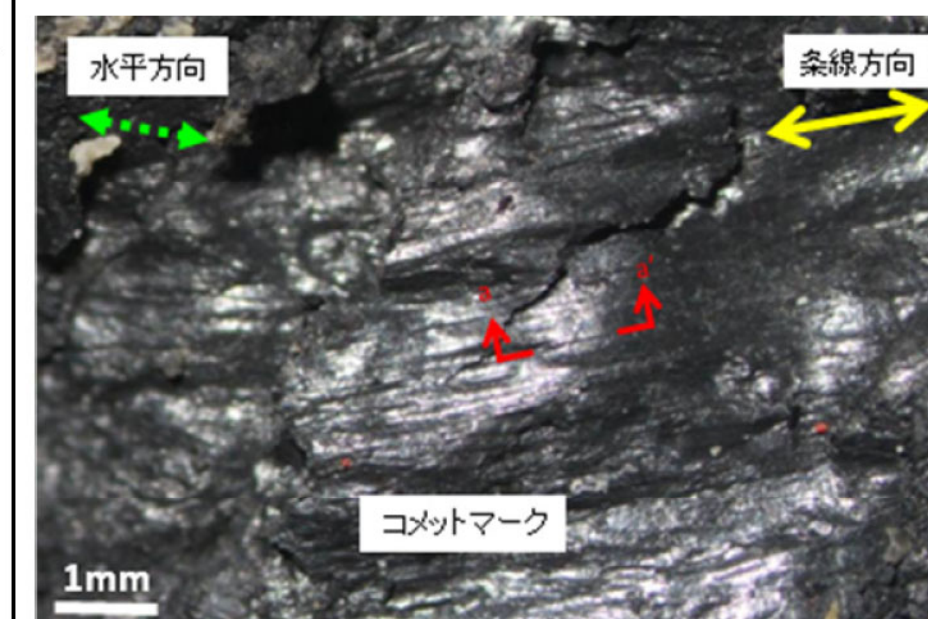
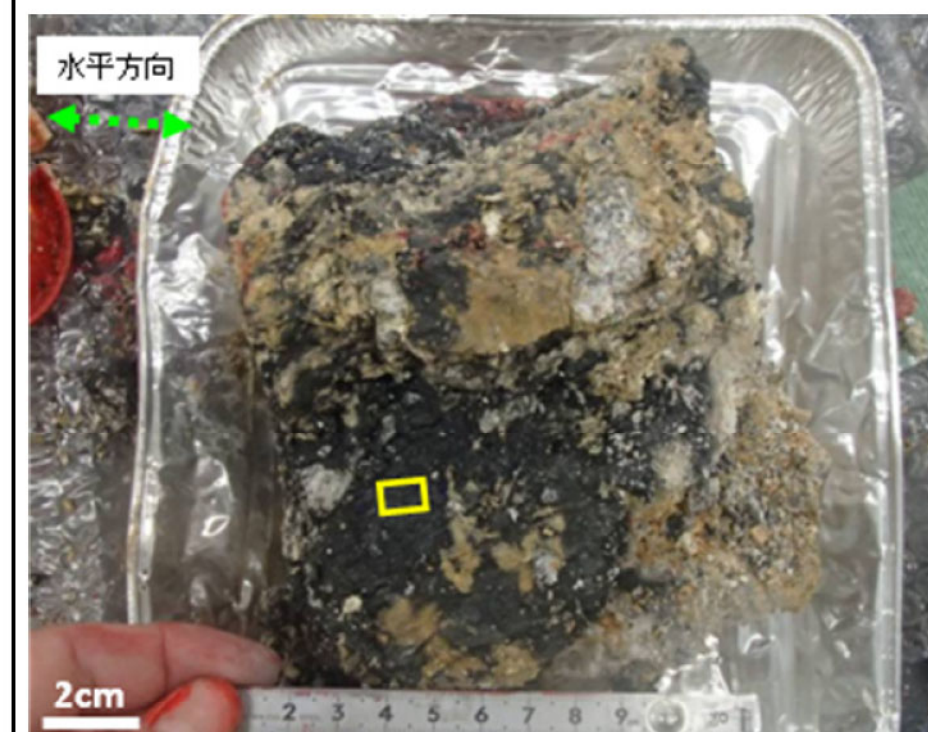
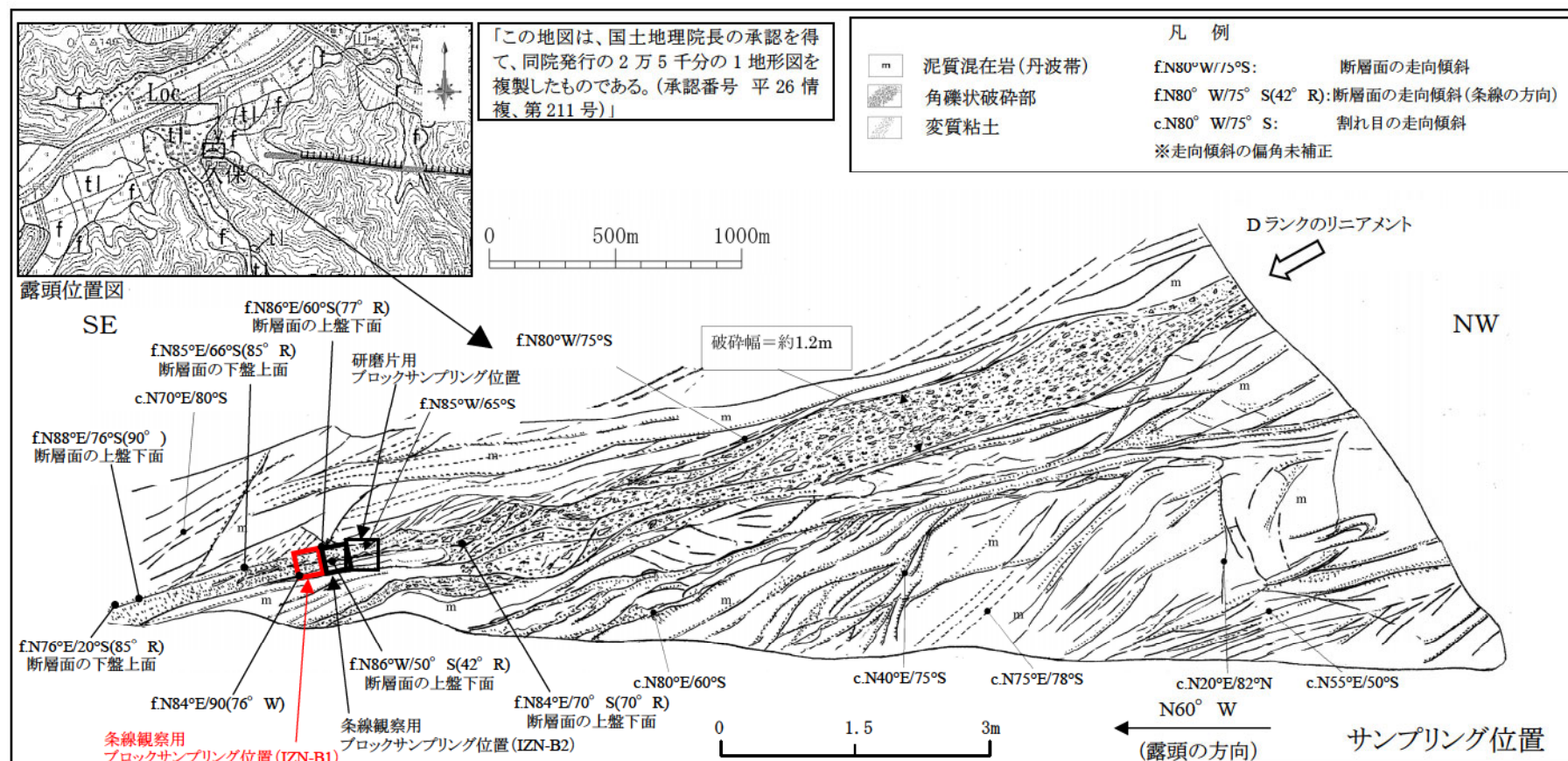
研磨片観察結果

- ・泥質混在岩を原岩とする角礫状破砕部及び礫混じり粘土状破砕部からなる。
- ・Y面とP面・R1面の関係から、最新活動を示す断層面の変形組織は左ずれ・正断層センスを示す。

研磨片 (縦ずれ成分観察用)

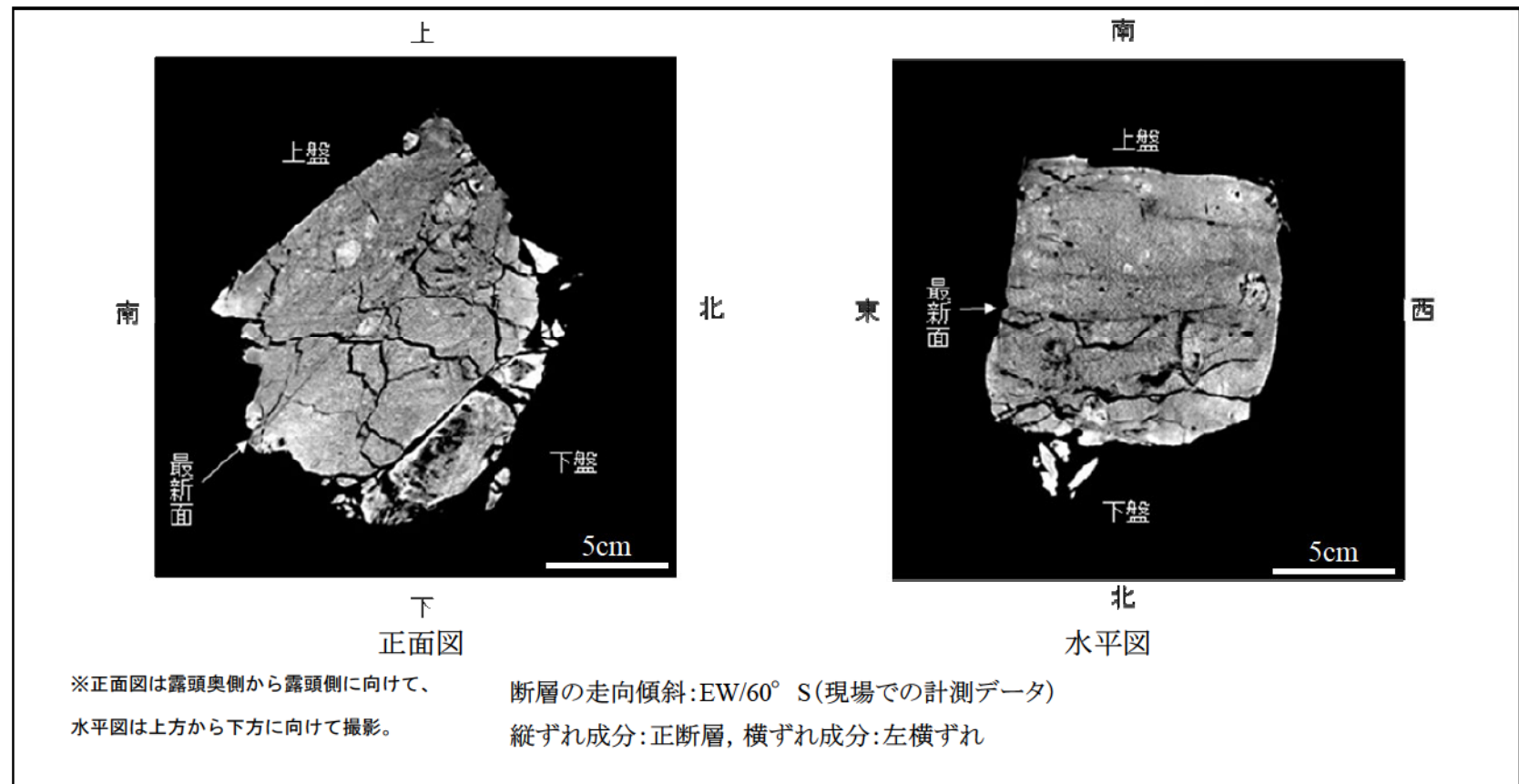
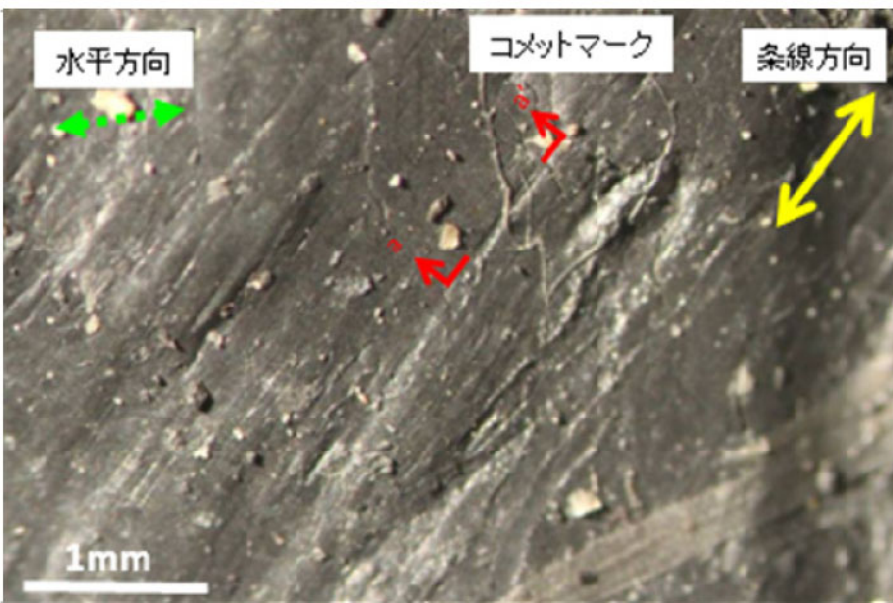
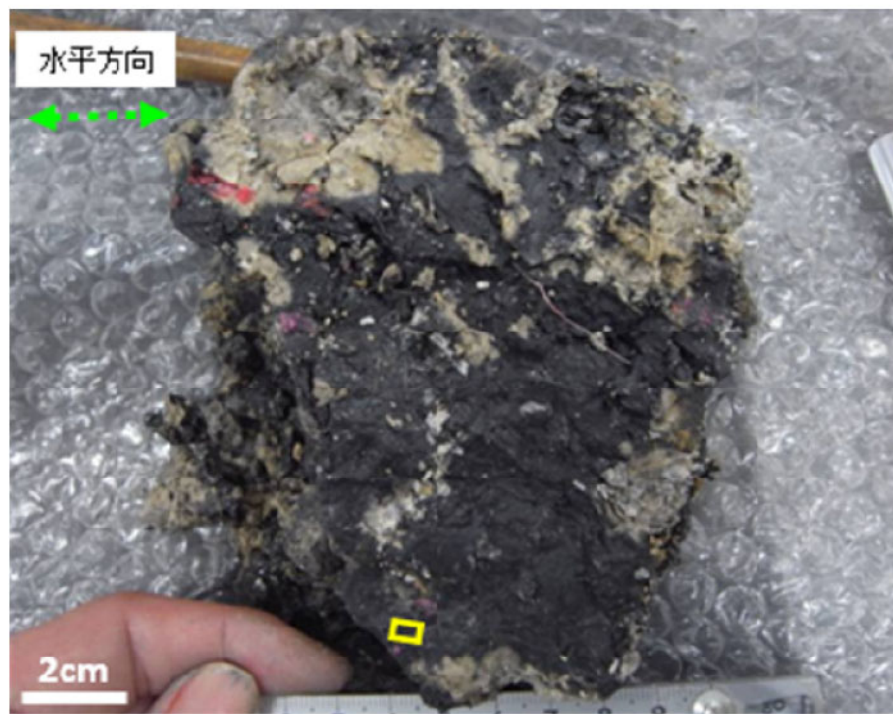
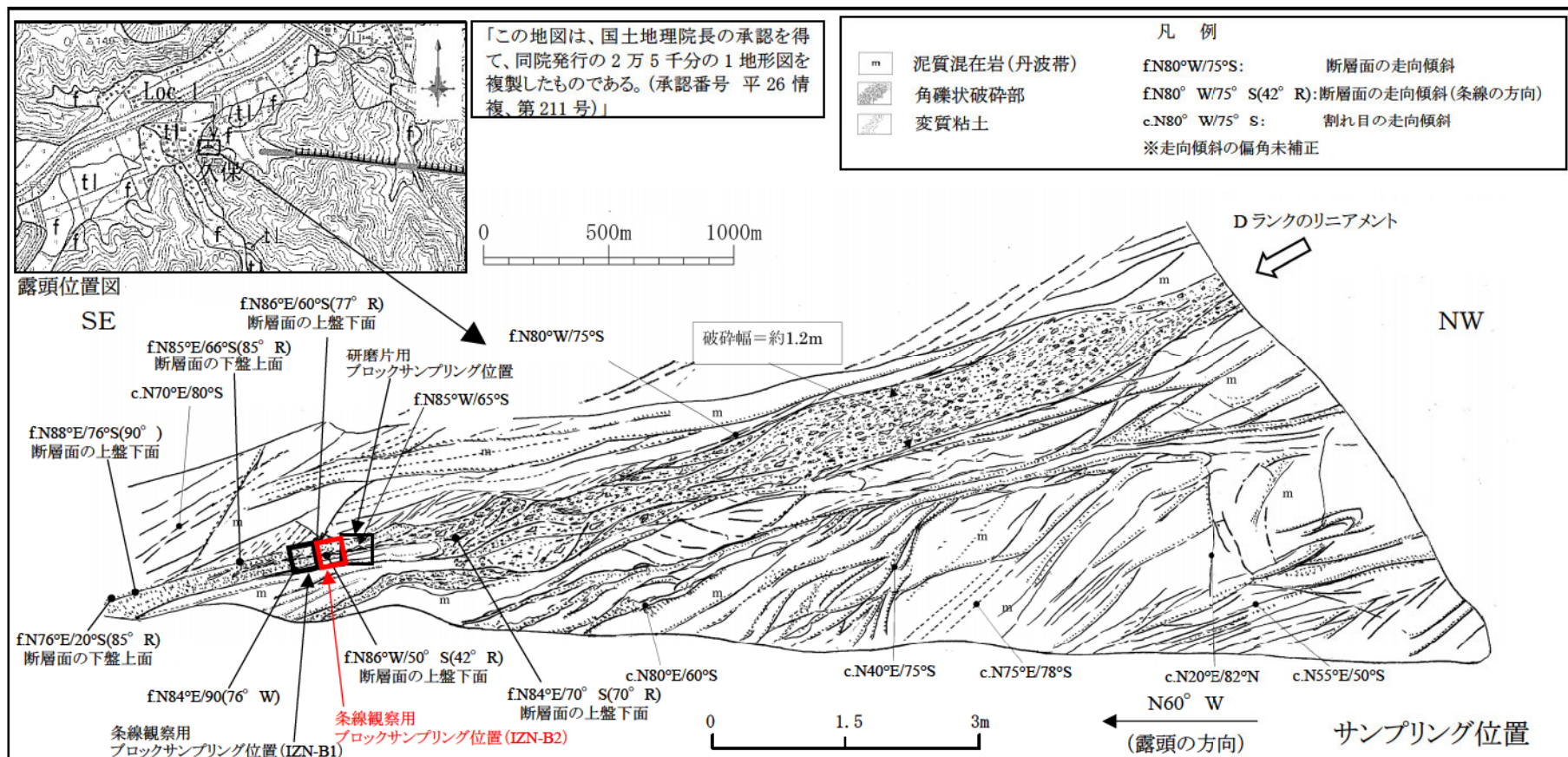


第 1.3.114 図 石山坂峠北リニアメント 研磨片観察結果 (Loc. 1)



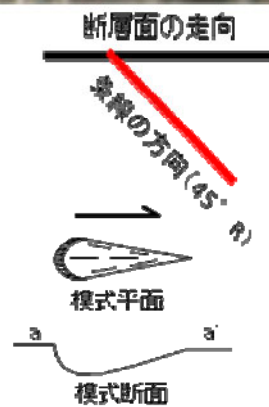
- ・条線観察の結果、条線のレイクは20° Rであり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

第1.3.115図(1) 石山坂峠北リニアメント 条線観察結果 (Loc.1、IZN-B1 試料)



- ・条線観察の結果、条線のレイクは45° Rであり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

断層面の状況
左横ずれ正断層



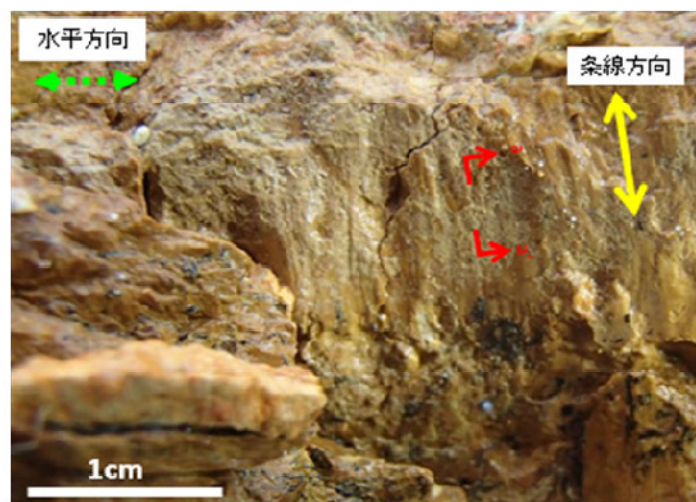


写真 a 断層面の下盤上面

断層面の走向/傾斜: TN88° W/66° S

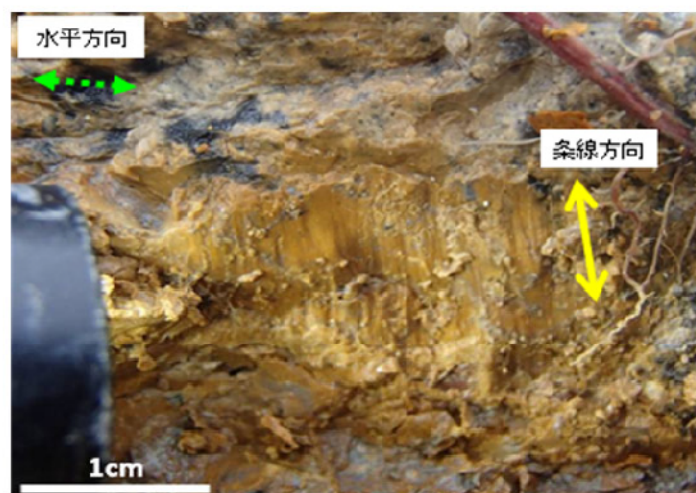


写真 b 断層面

断層面の走向/傾斜: TN89° W/90°

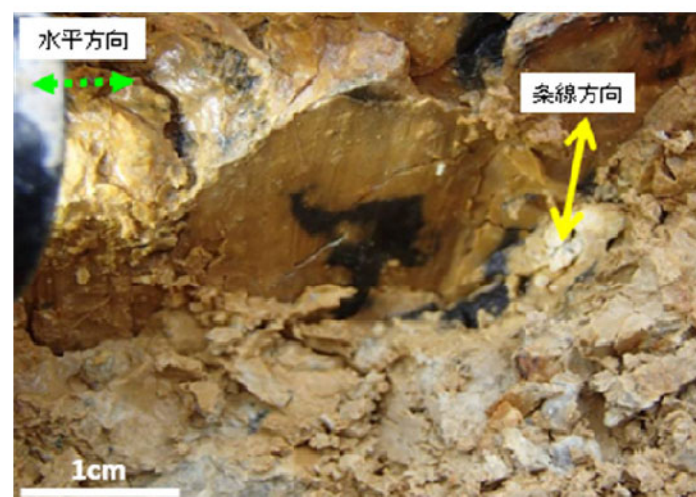


写真 c 断層面の上盤下面

断層面の走向/傾斜: TN87° W/60° S

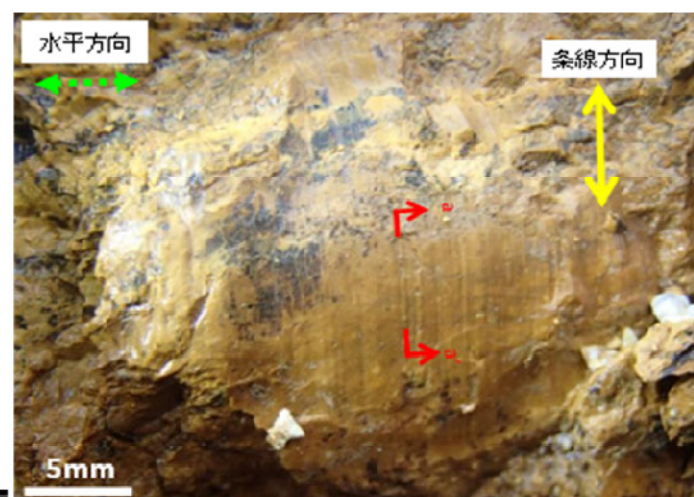
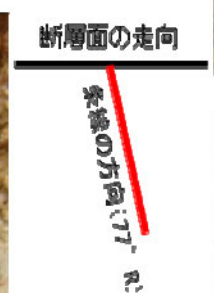
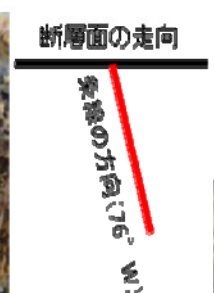
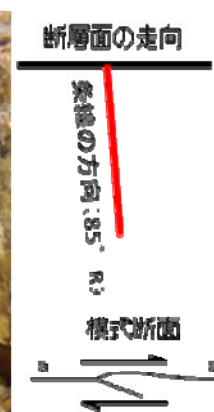


写真 d 断層面の上盤上面

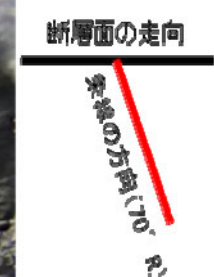


写真 e 断層面の上盤下面



断層面の走向/傾斜:

TN85° W/76° S



断層面の走向/傾斜:

TN89° W/70° S

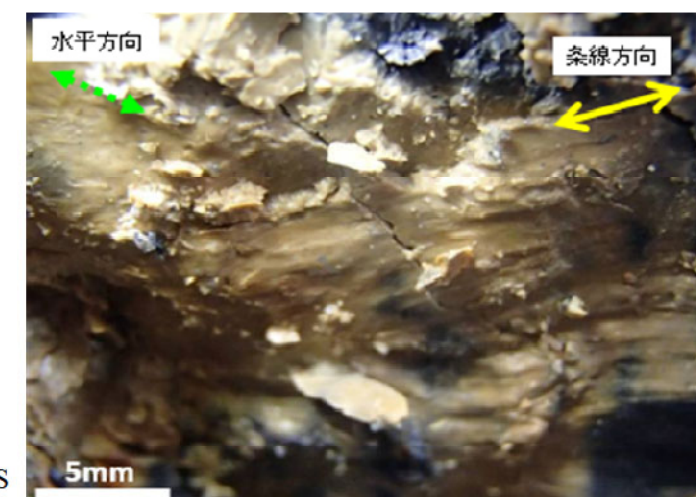


写真 f 断層面の上盤下面

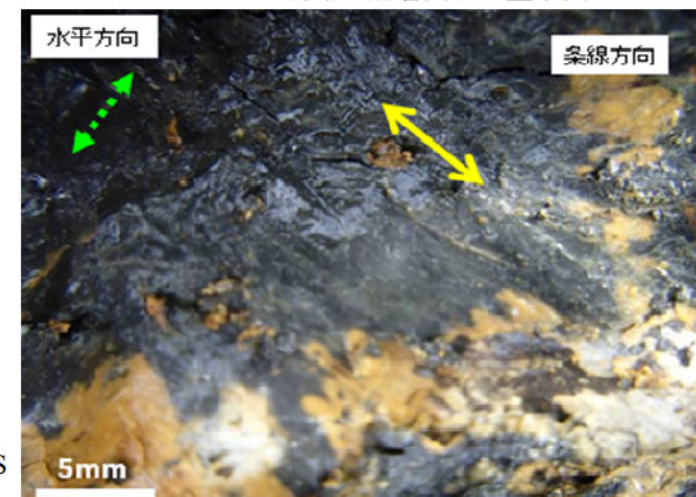
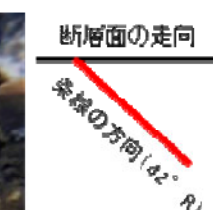


写真 g 断層面の下盤上面



断層面の走向/傾斜:

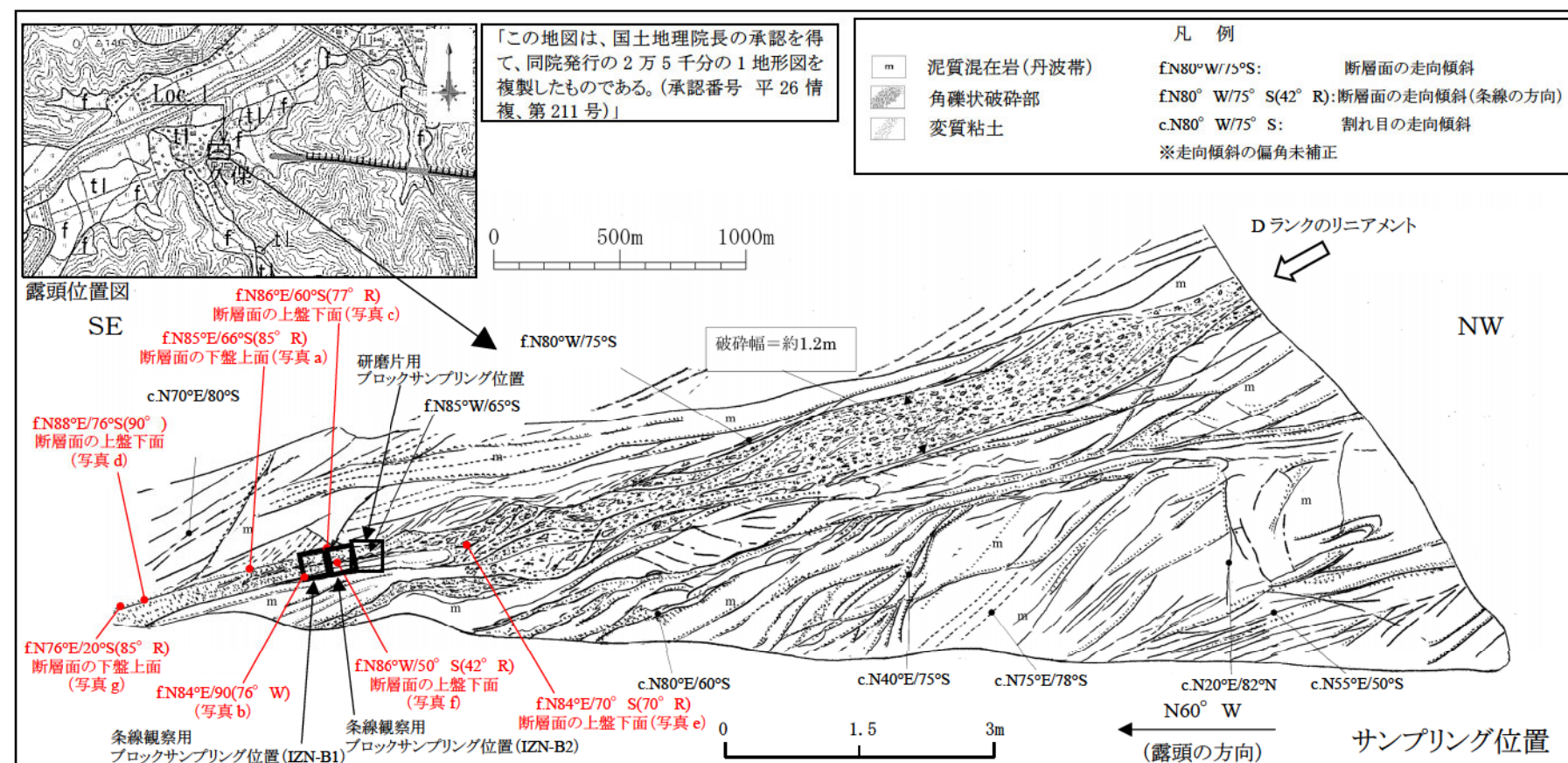
TN79° W/50° S



断層面の走向/傾斜:

TN83° E/20° S

条線はやや不明瞭

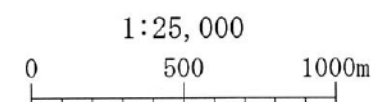




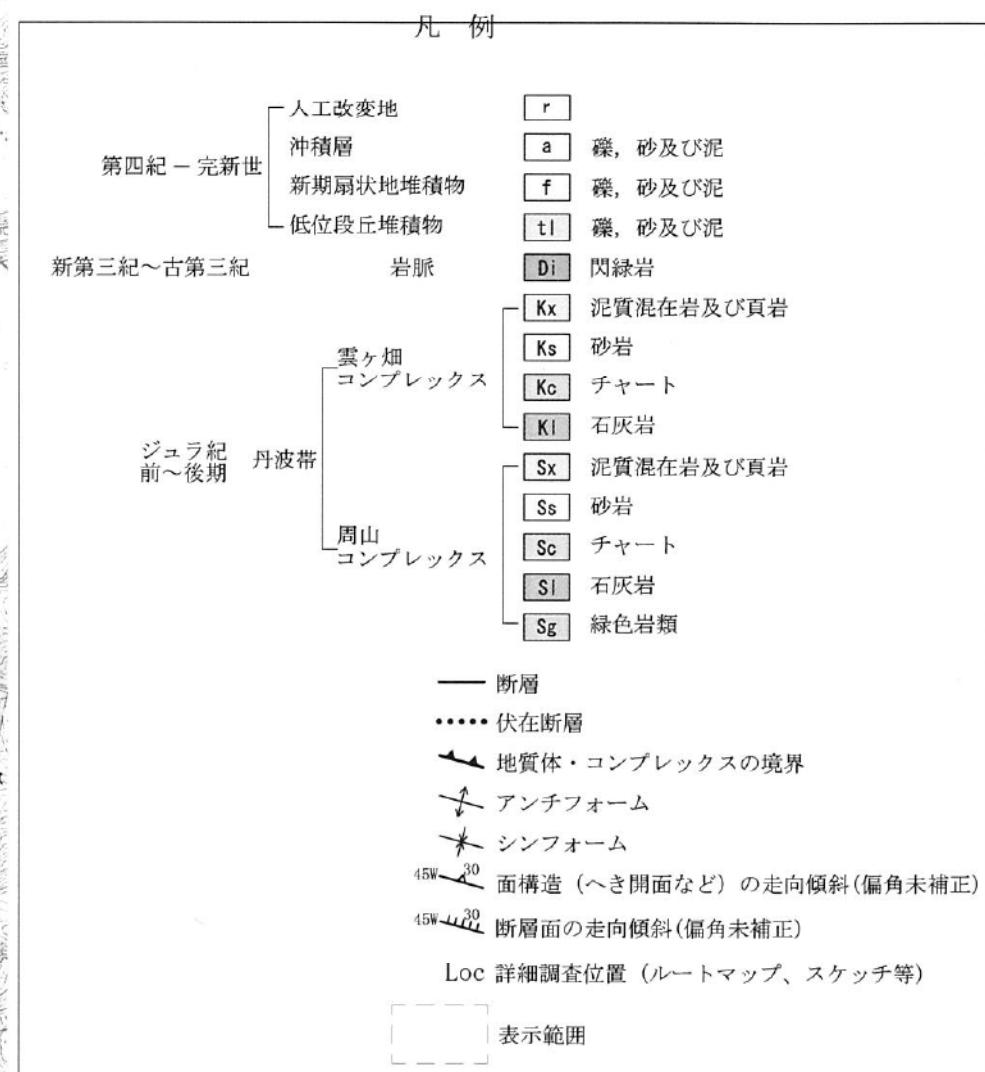
地形面の凡例	
t	低位段丘面
f	新期扇状地面
a	沖積面
r	人工改変地

変動地形・リニアメントの凡例	
	Dランク 短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
	主なリニアメント 岡田・東郷編(2000) ⁽³⁹⁾ に記載されている断層組織地形を転記したもの
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

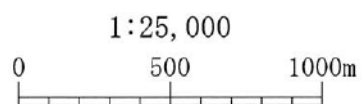
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」



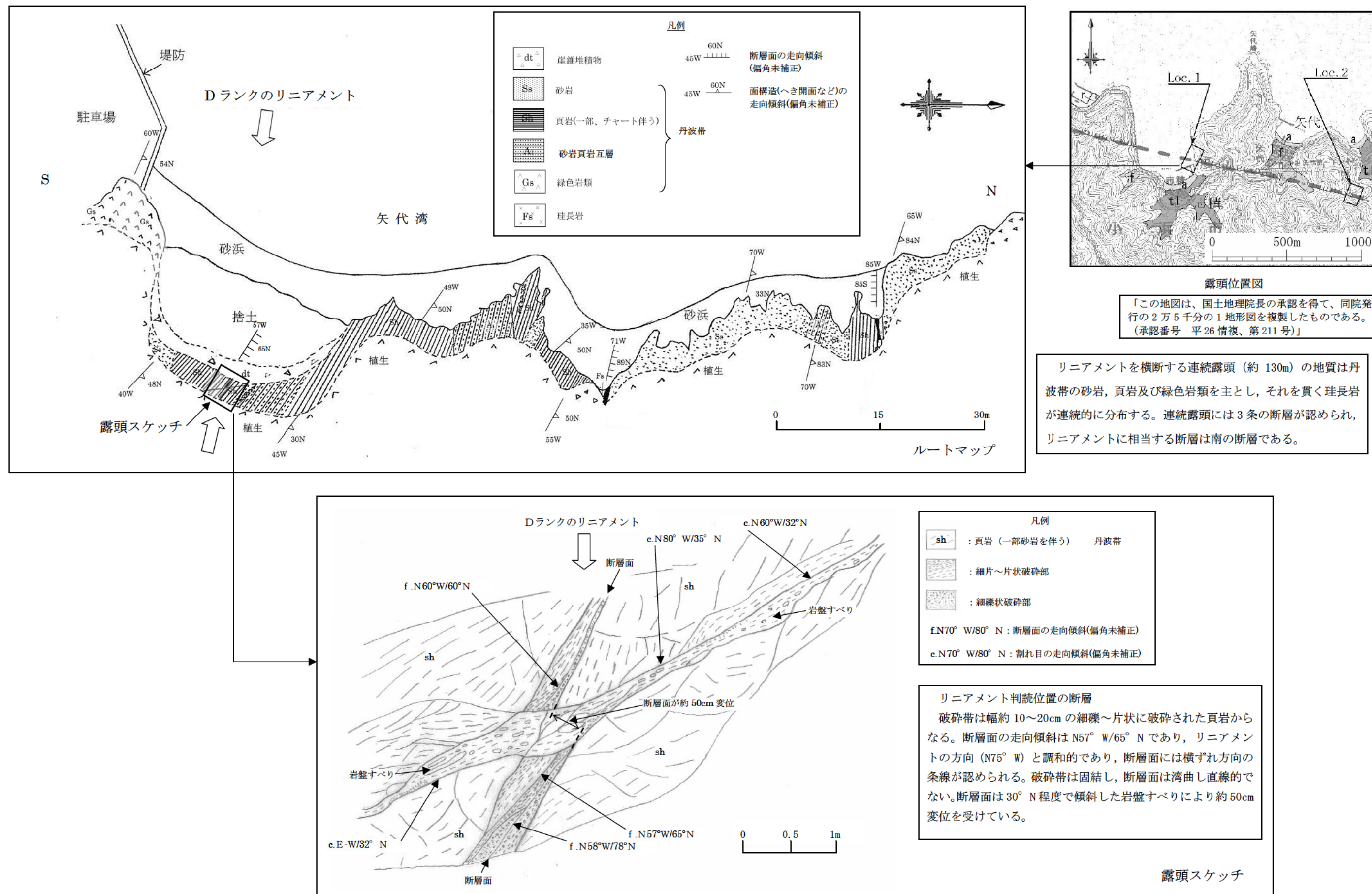
第1.3.116図 矢代リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」



第1.3.117図 矢代リニアメント周辺の地質図



第1.3.118図 矢代リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc.1)